

## 2. 意見及びニーズ把握

令和 8(2026)年度に予定されている「新たな小学校」の開校に伴い、通学路が変更になる合川小学校及び天名小学校に通学する児童及び両小学校区に居住している未就学児の保護者を対象に、スクールバス導入に伴う意向を把握し、今後の協議や検討に保護者の意見を参考にするためのアンケートを実施した。具体的には、児童の保護者用（以下「調査票 A」）と、未就学児の保護者用（以下「調査票 B」）への 2 種類の調査票を作成し、調査を実施した。

### 2.1. アンケートの実施概要

#### (1) 実施期間

令和 6(2024)年 1 月 30 日（火）から 2 月 14 日（水）まで

#### (2) 質問項目

表 1 に調査票の質問項目について示す。

表 1 調査票ごとの質問項目

調査票 A（児童の保護者向け）		調査票 B（未就学児の保護者向け）	
質問番号	質問項目	質問番号	質問項目
■児童の属性		■未就学児の属性	
問 1	在住地区	問 1	在住地区
問 2	児童の人数	問 2	未就学児の人数
問 3	児童の学年	問 3	未就学児の出生時期
問 4	小学校入学予定児の有無		
問 5	小学校入学予定児の出生時期		
■児童の登下校について		■通学距離、通学時間について	
問 6	現在の通学方法		
問 7	自宅から小学校までの通学距離	問 4	自宅から最寄りの小学校までの距離
問 8	通学距離の限度	問 5	児童にとって適切な通学距離
■スクールバスの導入について		■スクールバスの導入について	
問 9	スクールバスの利用希望	問 6	スクールバスの利用希望
問 10	スクールバス利用希望の理由	問 7	スクールバス利用希望の理由
問 11	スクールバスが導入された際の利用方法	問 8	スクールバスが導入された際の利用方法
問 12	自宅から乗降場所までの適切な距離	問 9	自宅から乗降場所までの適切な距離
問 13	スクールバスの適切な乗車時間	問 10	スクールバスの適切な乗車時間
問 14	スクールバス運行で重視する点	問 11	スクールバス運行で重視する点
問 15	スクールバス運行に伴う懸念	問 12	スクールバス運行に伴う懸念
問 16	スクールバスを利用しない理由	問 13	スクールバスを利用しない理由
		■学校再編に関する今度の取組	
		問 14	学校再編に関する認知
		問 15	教育委員会からのお知らせの認知
		問 16	学校再編についての意見交換会への参加希望
		問 17	学校再編についての意見交換会の希望日時
■スクールバス導入に伴う自由意見		■スクールバス導入に伴う自由意見	

### (3) 配布・回収形式

アンケートの配布については、「調査票 A」については学校を通じて、「調査票 B」については鈴鹿市教育委員会事務局教育政策課から郵送した。

アンケートの回収は、「調査票 A」については、1)児童を通じて学校に提出、2)WEB 回答の 2 通りとした。「調査票 B」については原則 WEB 回答とし、合川・天名小学校に通う児童がいる対象者のみ学校への提出も可能とした。

### (4) 配布及び回収状況

調査票 A、調査票 B のアンケート回答状況を、以下に示す。

調査票 A の回答率が 89.6%であるのに対し、調査票 B は 75.9%であった。

表 2 アンケート配布及び回答結果

	調査票 A (児童の保護者向け)	調査票 B (未就学児の保護者向け)
配布数	115	83
回答数	103	65
回答率	89.6%	78.3%
無効票数	0	2
有効回答数	103	63
有効回答率	89.6%	75.9%

### (5) 集計手順

回収したアンケートの集計は、単純集計のほか、地区別の特性を把握するための地区毎（合川区・天名地区）の集計のほか、「調査票 A（児童の保護者向け）」については、児童の成長による特性を把握するための学年毎（低学年・高学年）の集計も行った。

なお、留意点は以下のとおりである。

- 「調査票 A（児童の保護者向け）」については、合川小学校または天名小学校へ通学している児童であっても地区外に居住している児童もいることから、全体集計の合計と地区別集計の合計は一致しないことがある。
- 令和 5(2023)年度時点での低学年（1～3 年生）、高学年（4～6 年生）の区分けは、令和 8(2026)年度に開校を予定している「新たな小学校」への通学の可能性がある学年とそうでない学年の区分とも一致する。また、低学年と高学年の両方に児童がいる世帯もあることから、低学年の児童を持つ保護者と高学年の児童を持つ保護者の合計は総数と一致しない。

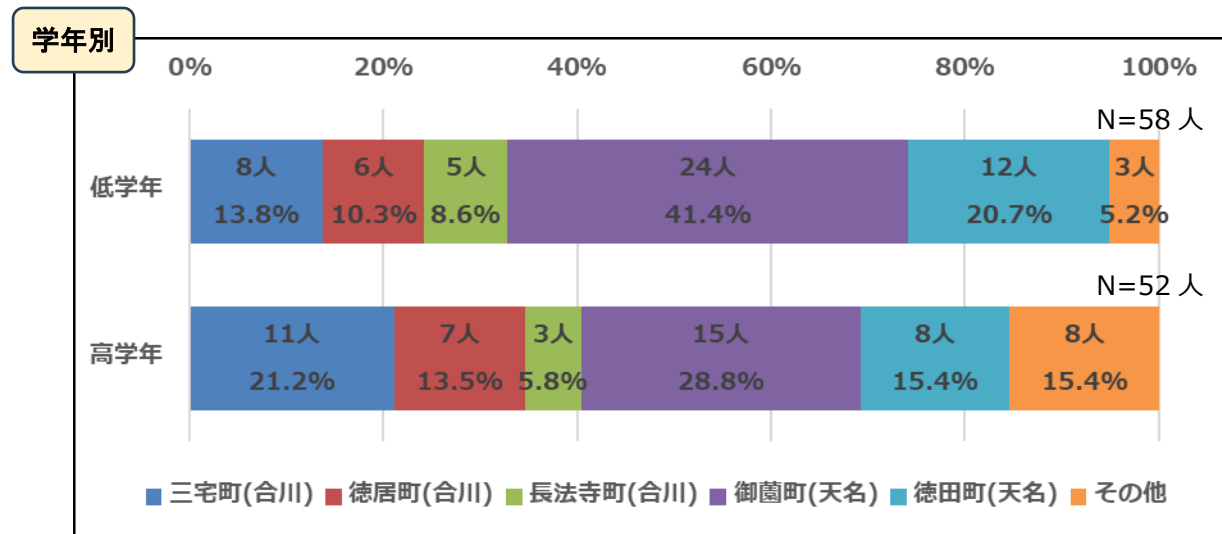
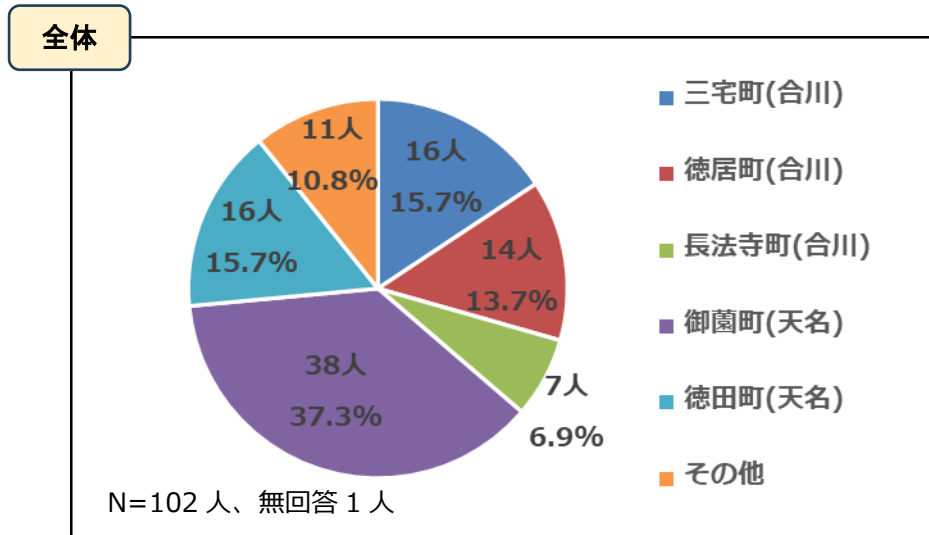
アンケートの集計結果について、次ページ以降に示す。

## 2.2 アンケート結果の整理【調査票 A（児童の保護者向け）】

### (1) 【問 1】 在住地区

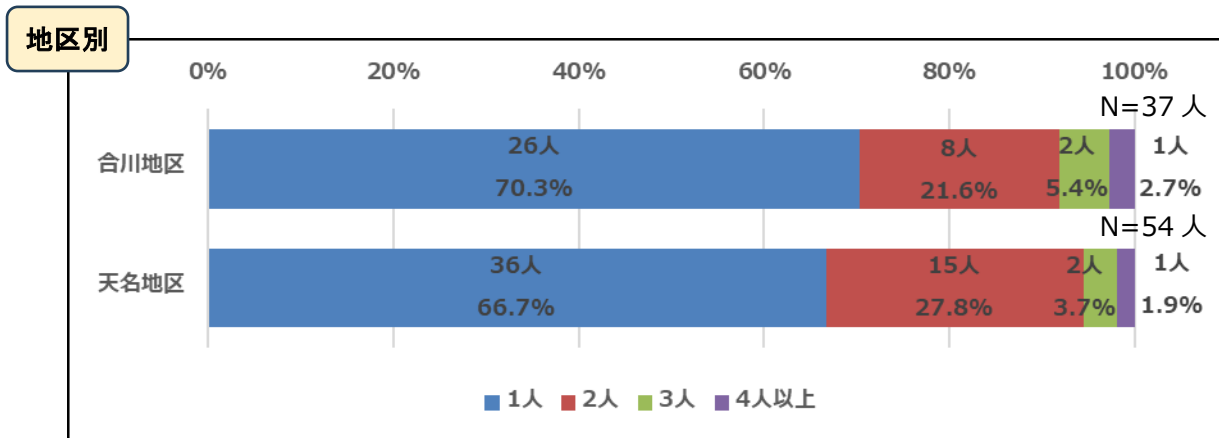
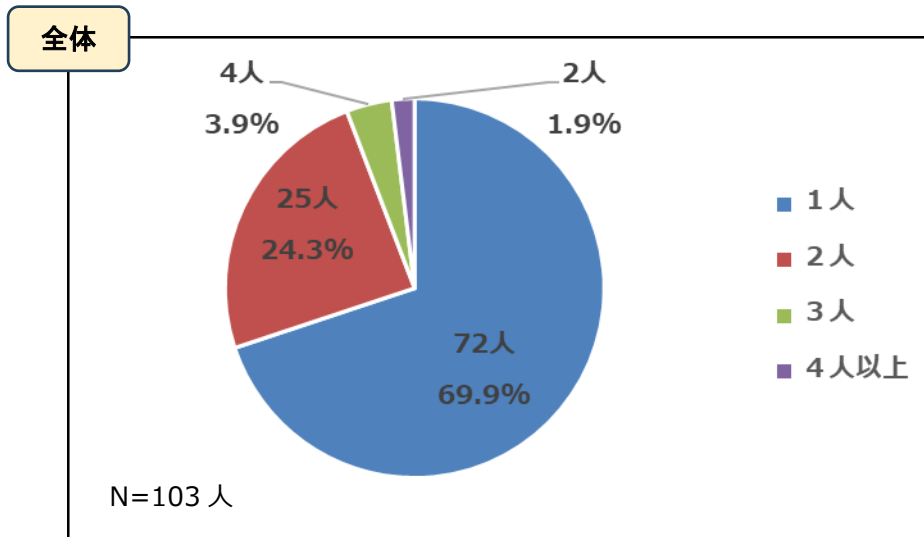
「御菌町(天名地区)」が 37.3%と最も多く、次いで「三宅町(合川地区)」と「徳田町(天名地区)」が 15.7%となっている。低学年の場合、「御菌町(天名地区)」が 41.4%である。

なお、「その他」は本来の小学校区外からの通学者である。そのため、以降、小学校区毎（地区毎）の回答数の合計値が全体の合計値と合わないことがある。



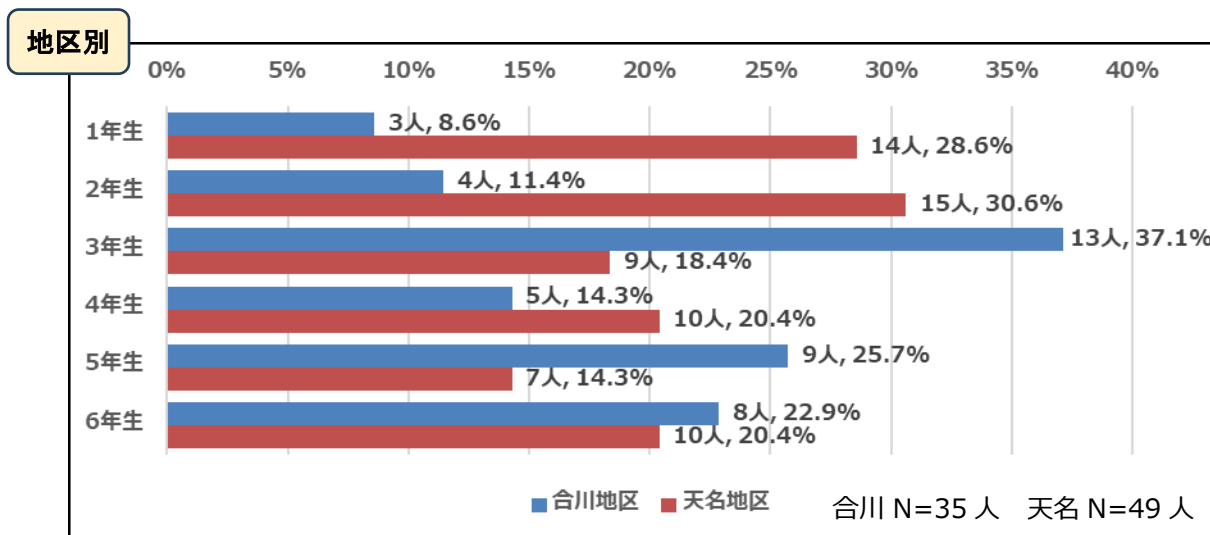
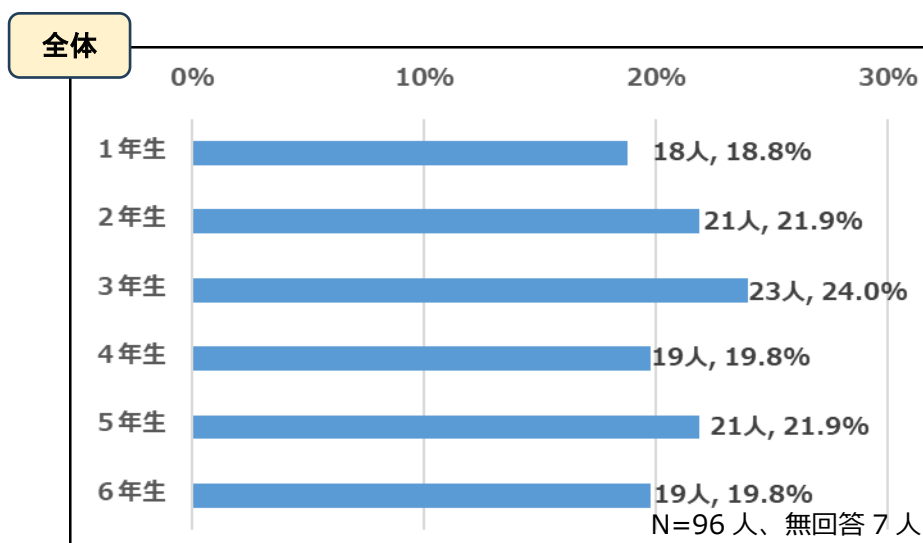
(2) 【問 2】 児童の人数

児童の数が 1 人のケースが 69.9%と最も多い。地区による大きな差はない。



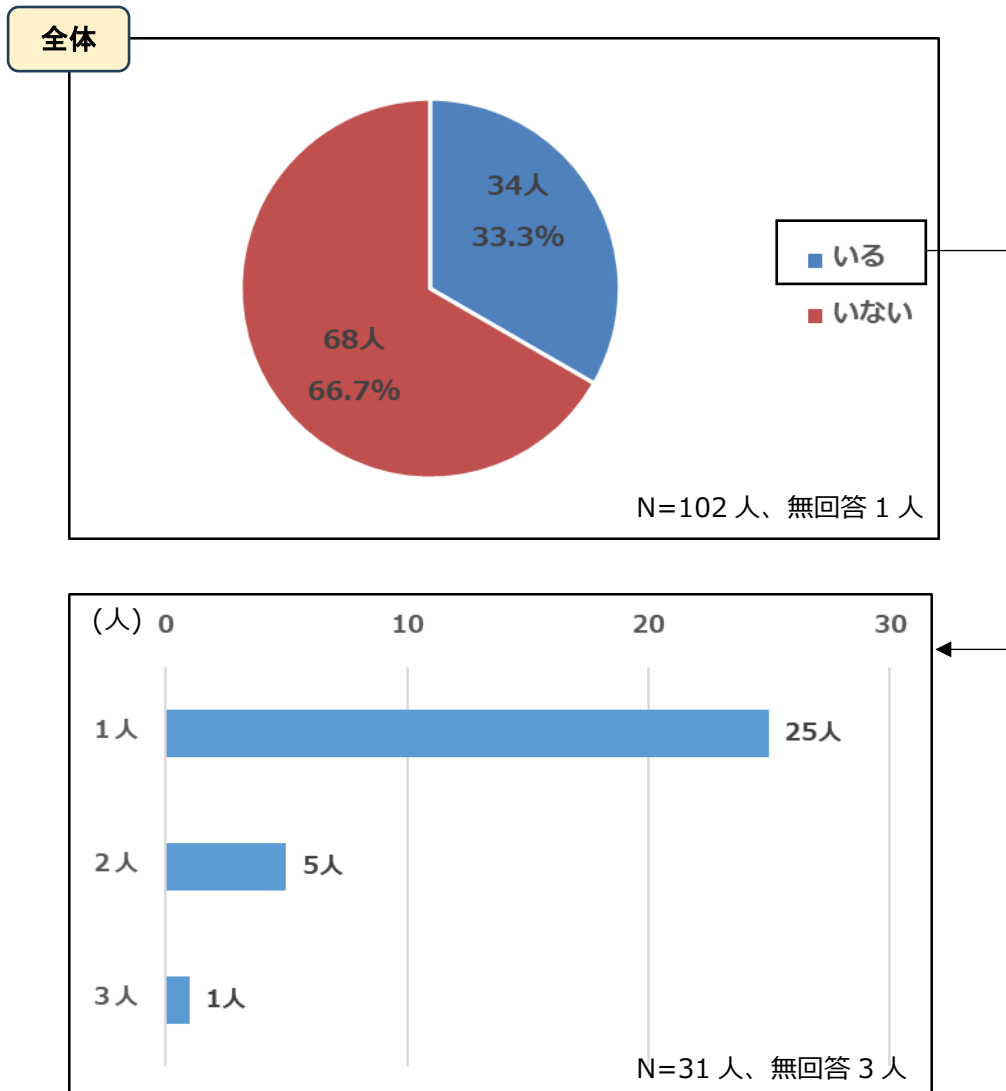
(3) 【問3】児童の学年（複数回答あり）

「3年生」が23人と最も多く、次いで「2年生」と「5年生」が21人である。天名地区は1年生と2年生の数がそれぞれ14人、15人と多い。



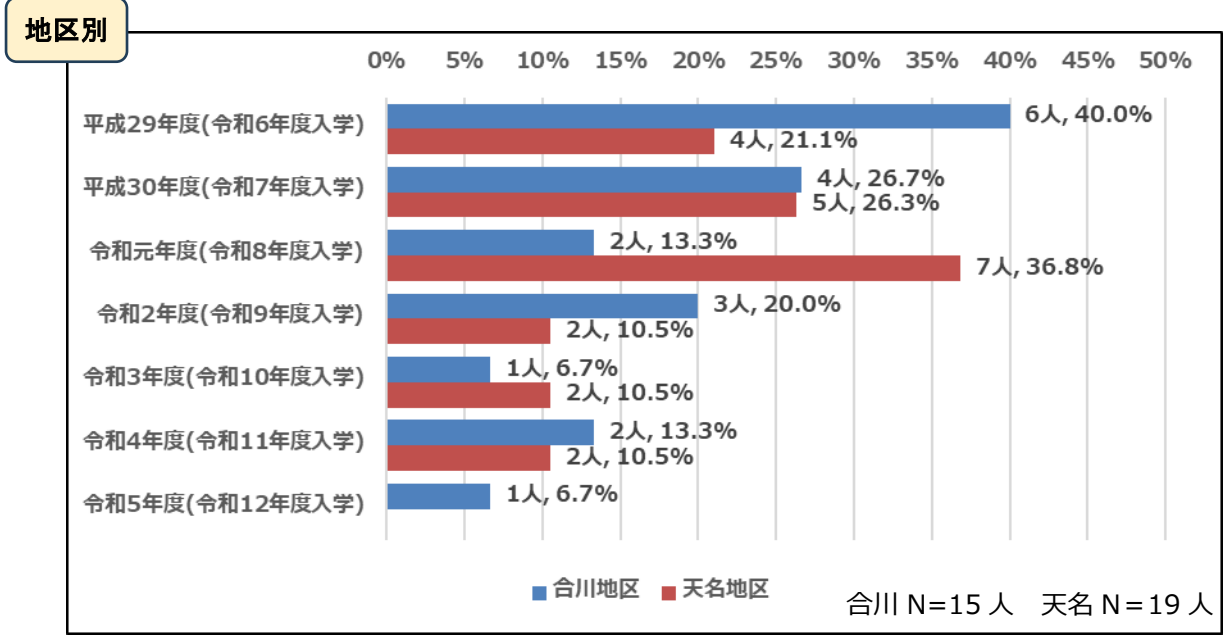
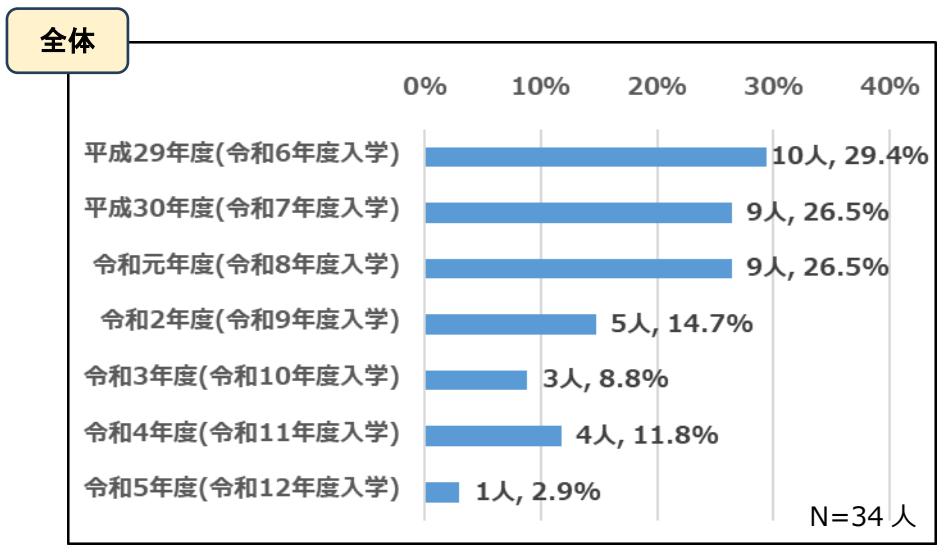
(4) 【問 4】 小学校入学予定児の有無

「いない」が 66.7%、「いる」が 33.3%である。なお、「いる」と回答した中で、子どもの人数は「1人」が25人である。



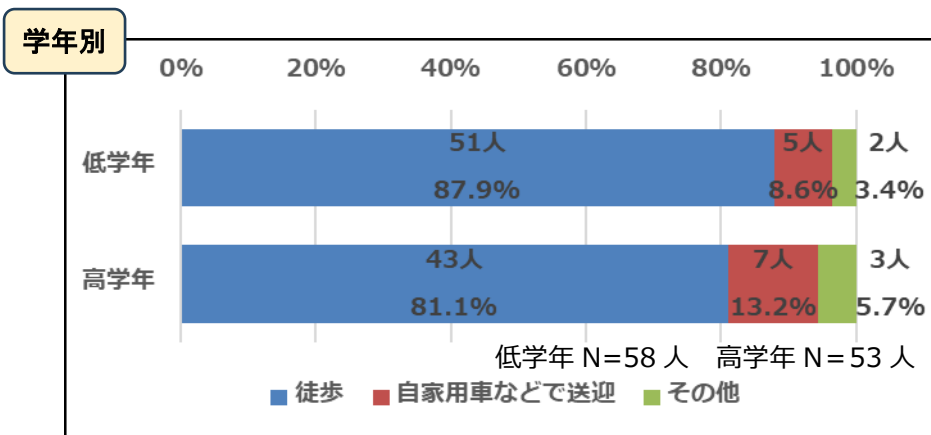
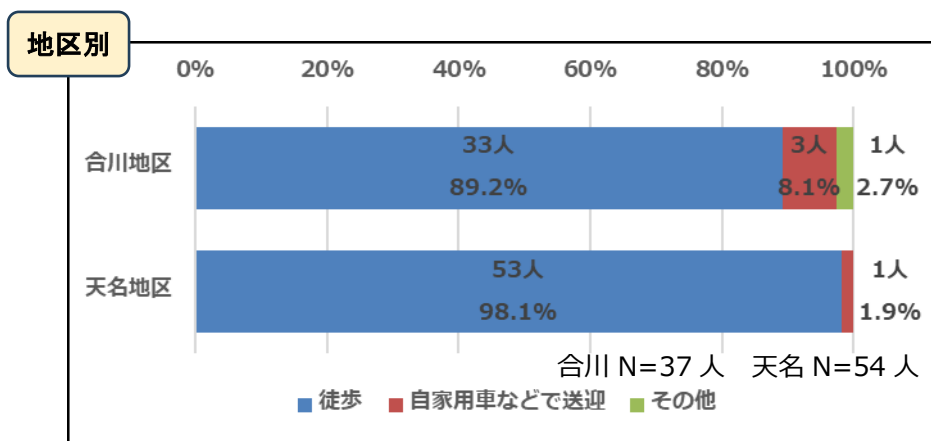
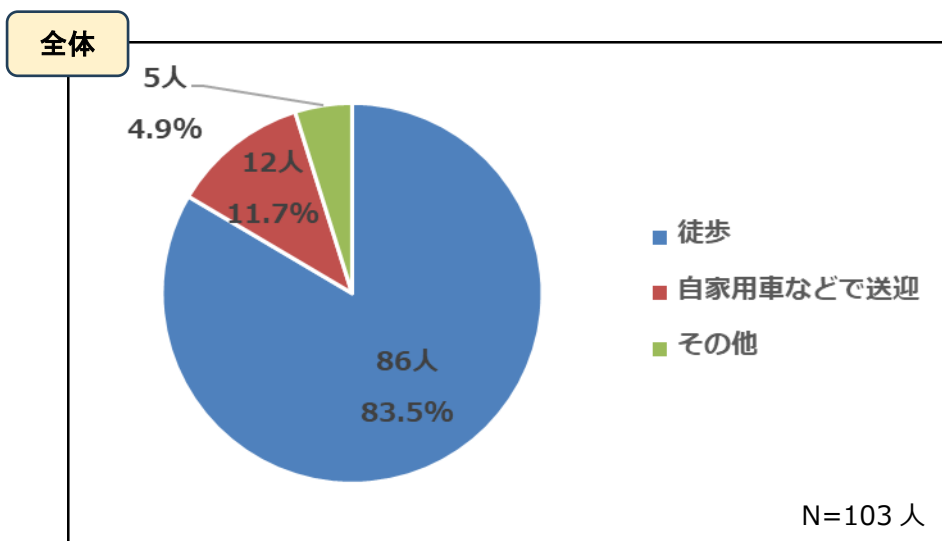
(5) 【問5】小学校入学予定児の出生時期（複数回答あり）

問4で「いる」と回答した中で、平成29年度生まれ（令和6年度入学）から令和元年度生まれ（令和8年度入学）が年間9～10人であるのに対し、令和2年度生まれ（令和9年度入学）以降は、年間5人以下である。



(6) 【問 6】現在の通学方法

徒歩が 83.5%、自家用車などで送迎が 11.7%である。地区や学年による大きな差は見られない。

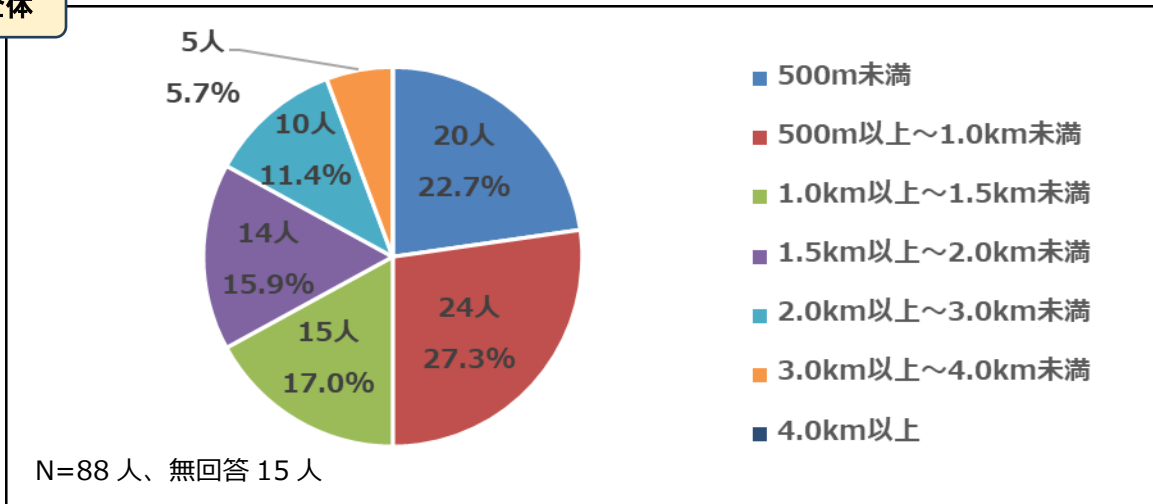




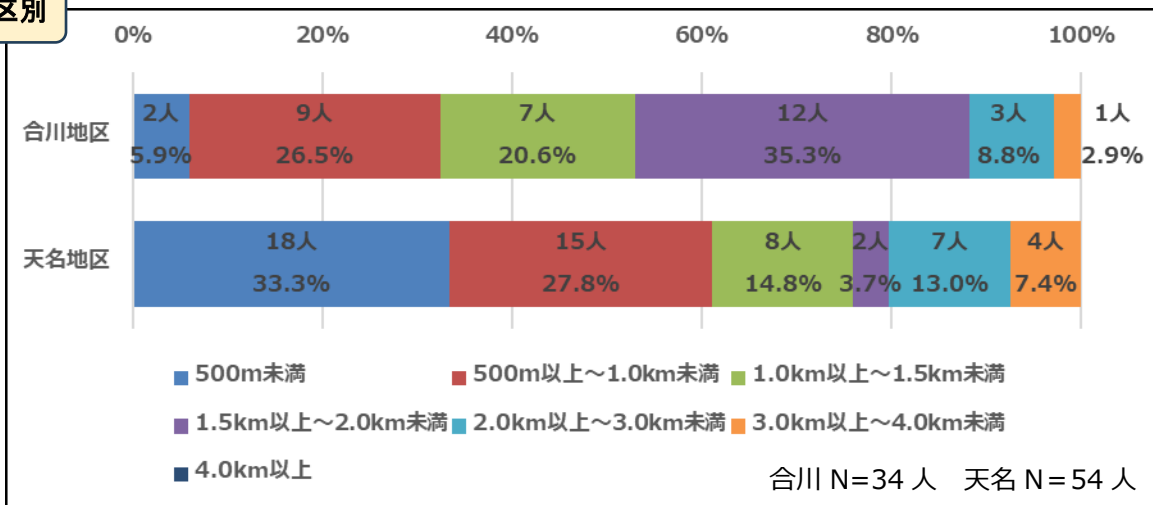
(7) 【問7】 自宅から小学校までの通学距離

「500m以上～1.0km未満」が27.3%と最も多く、次いで「500m未満」が22.7%、「1.0km以上～1.5km未満」が17.0%である。天名地区の場合、「500m未満」が33.3%と最も多く、合川地区に比べて通学距離が短い傾向にある。

全体



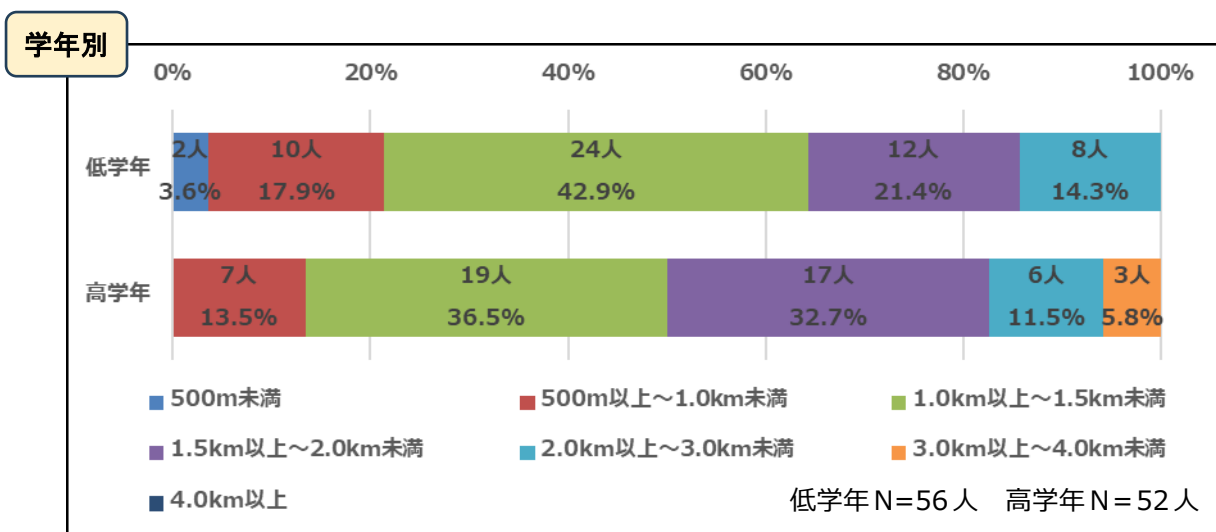
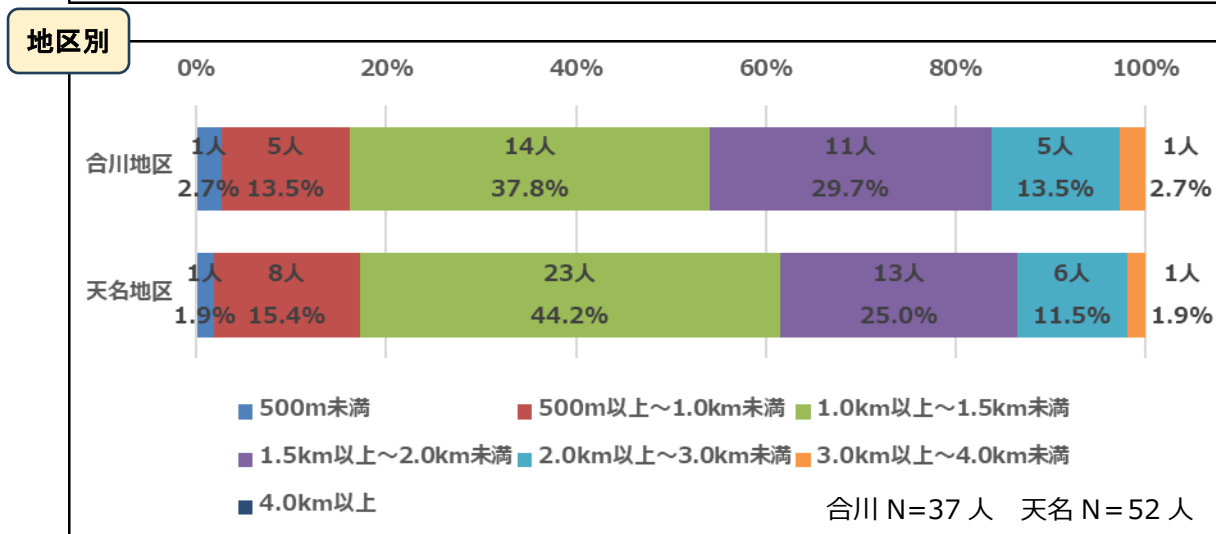
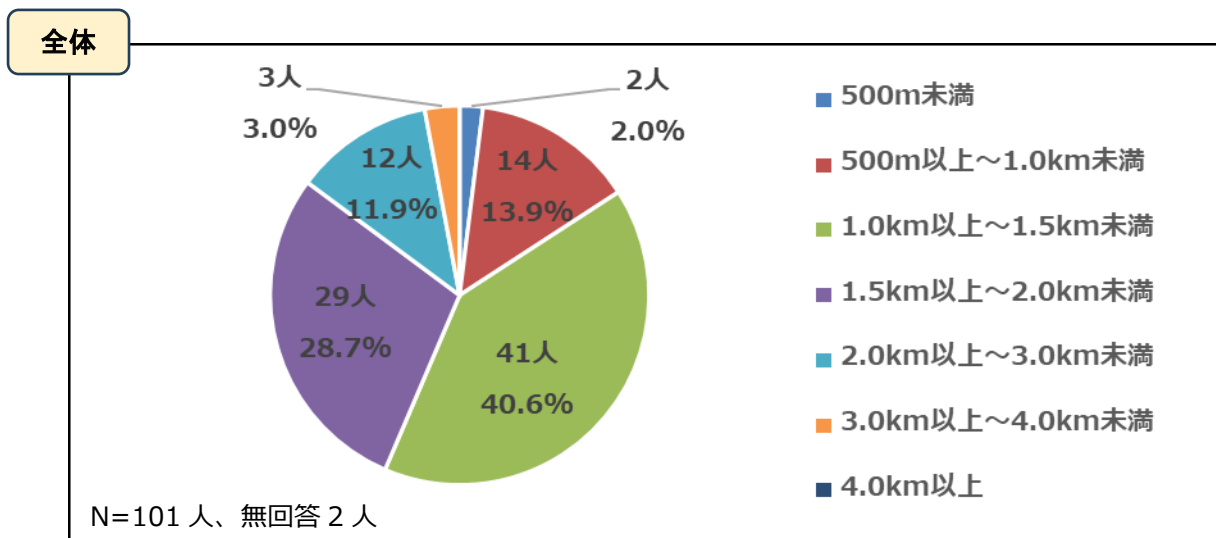
地区別



(8) 【問 8】 通学距離の限度

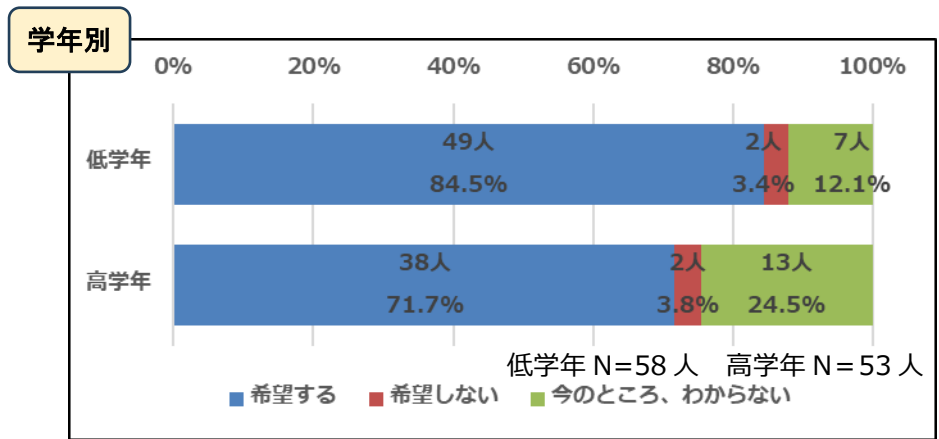
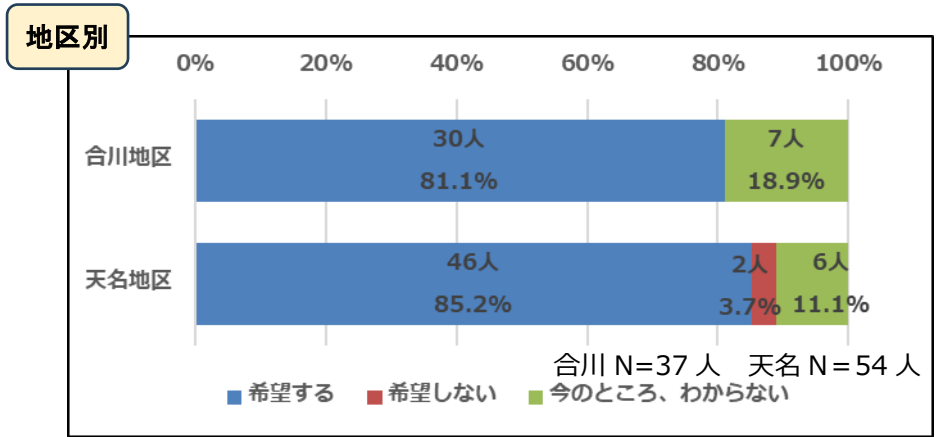
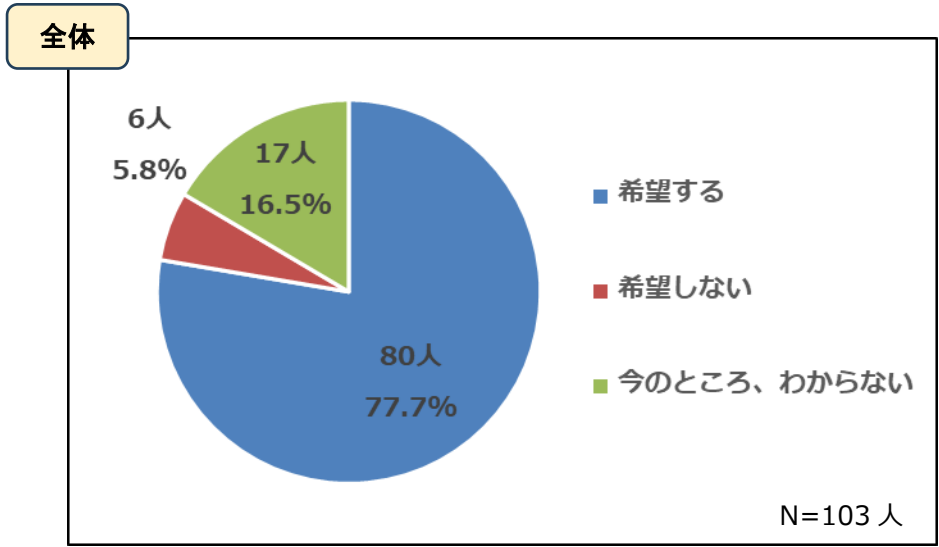
「1.0 km以上～1.5km 未満」が 40.6%と最も多く、次いで「1.5 km以上～2.0km 未満」が 28.7%、「500m 以上～1.0 km未満」が 13.9%である。97.1%の保護者が、通学距離の限度は 3km 未満と考えている。

低学年の児童を持つ保護者の方が、通学距離の限度を短めに考える傾向にある。



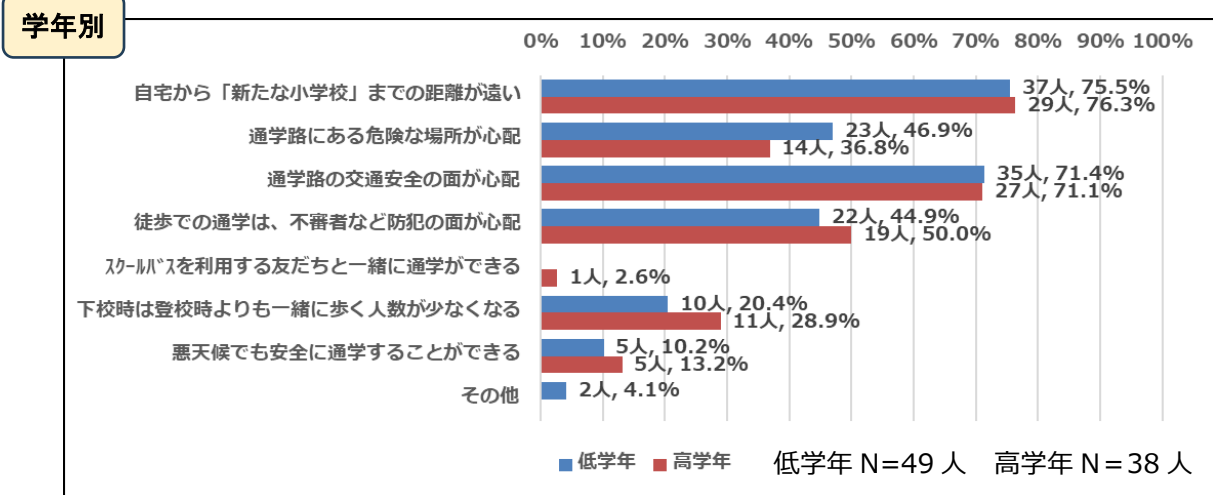
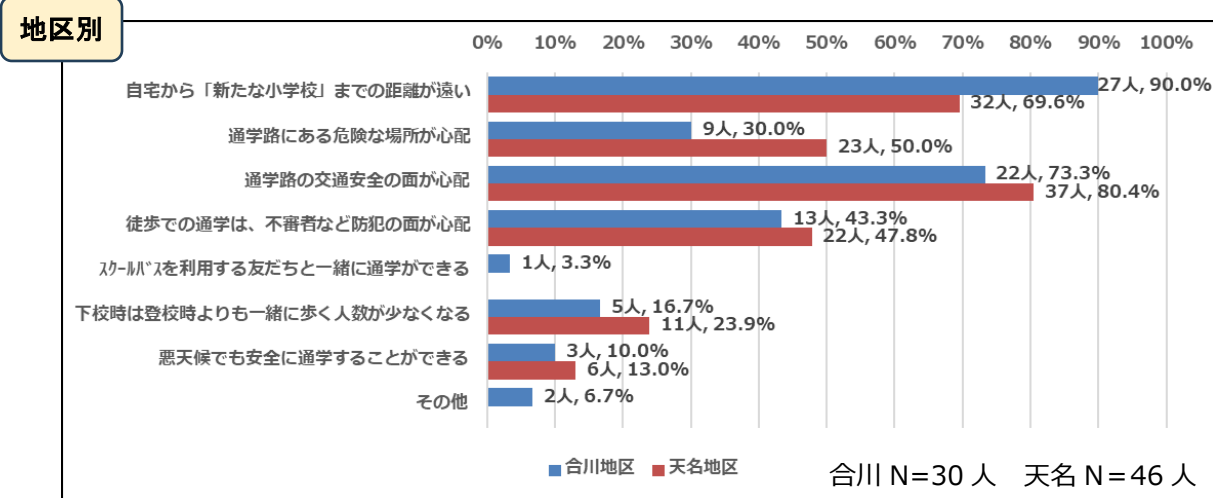
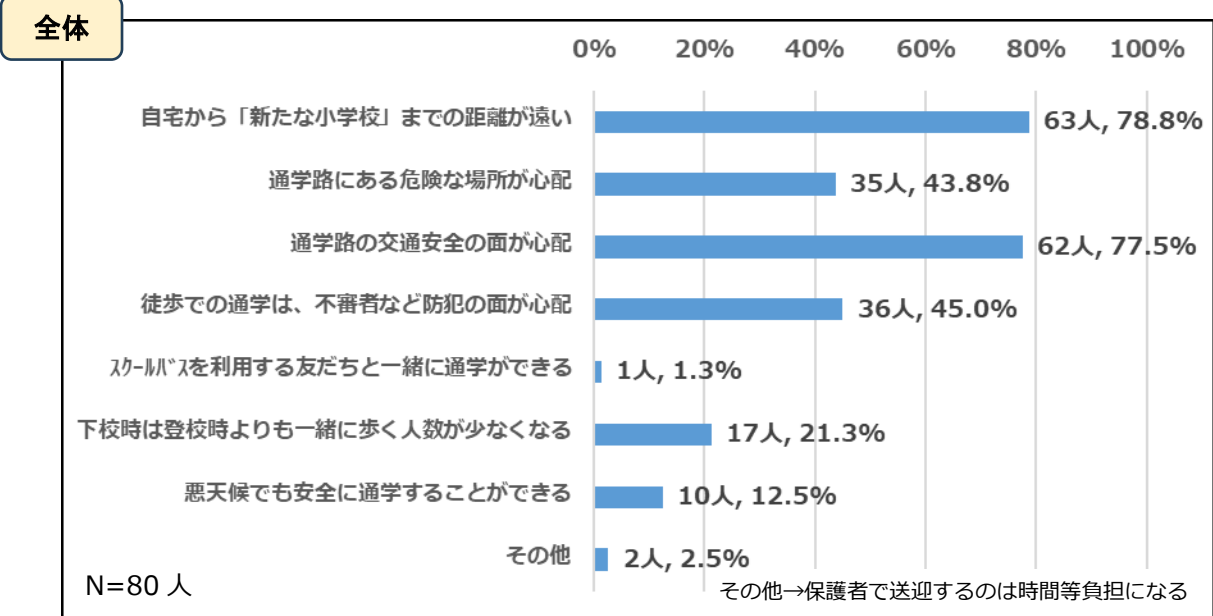
(9) 【問9】スクールバスの利用希望

「希望する」が77.7%と最も多く、次いで「今のところ、わからない」が16.5%、「希望しない」が5.8%である。地区や学年による大きな差は見られない。



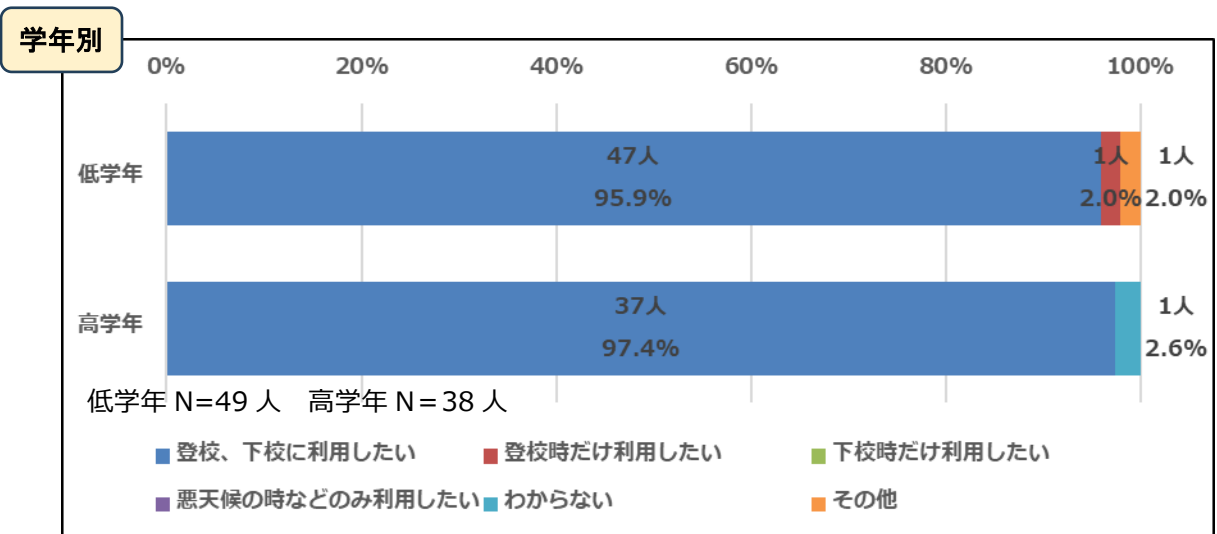
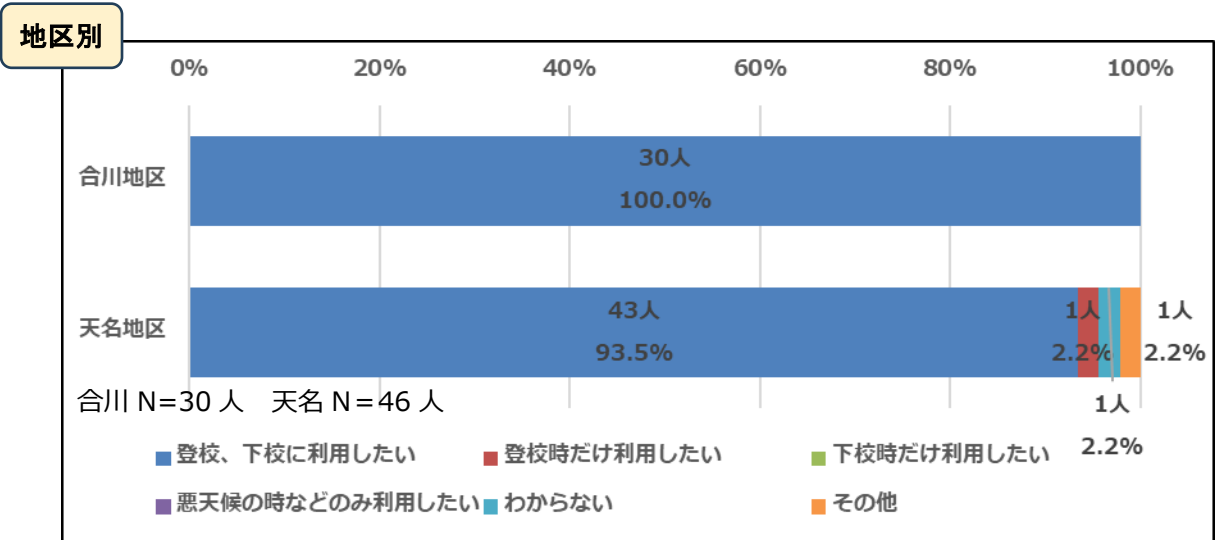
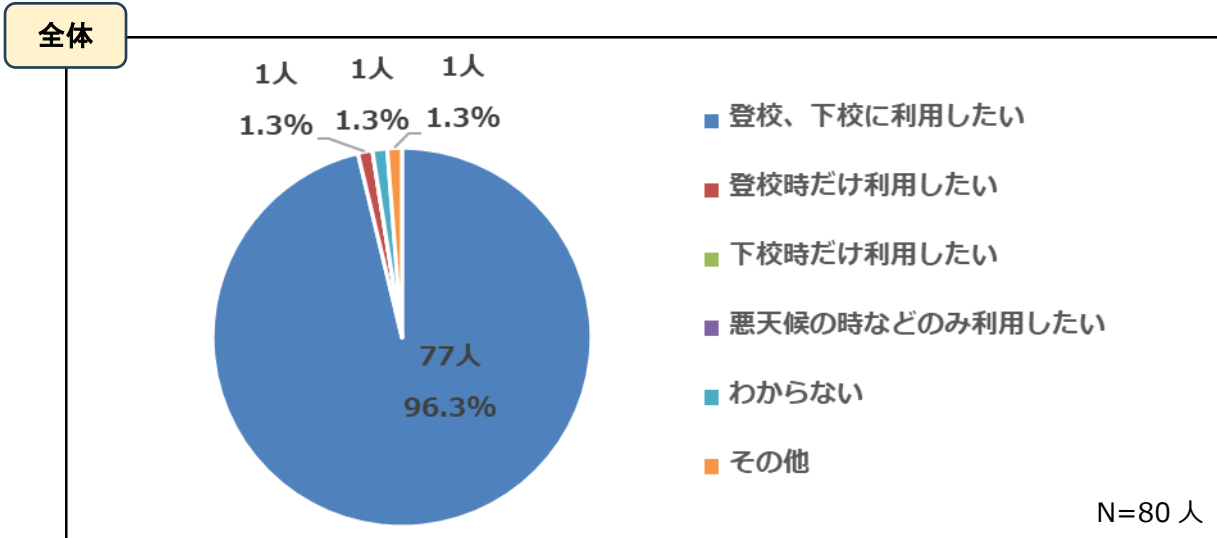
(10) 【問 10】スクールバス利用希望の理由 (最大3つまで選択)

「自宅から新たな小学校までの距離が遠いため」が63人と最も多く、次いで「通学路の交通安全の面が心配であるため」が62人である。地区別では、「通学路にある危険な場所が心配」と回答した割合が、合川地区が30.0%であったのに対し、天名地区は50.0%と多い。



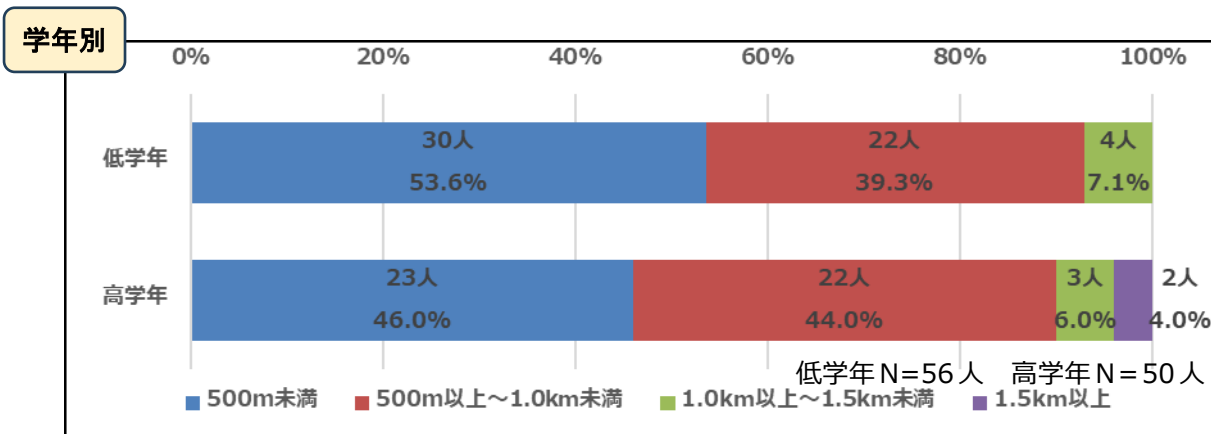
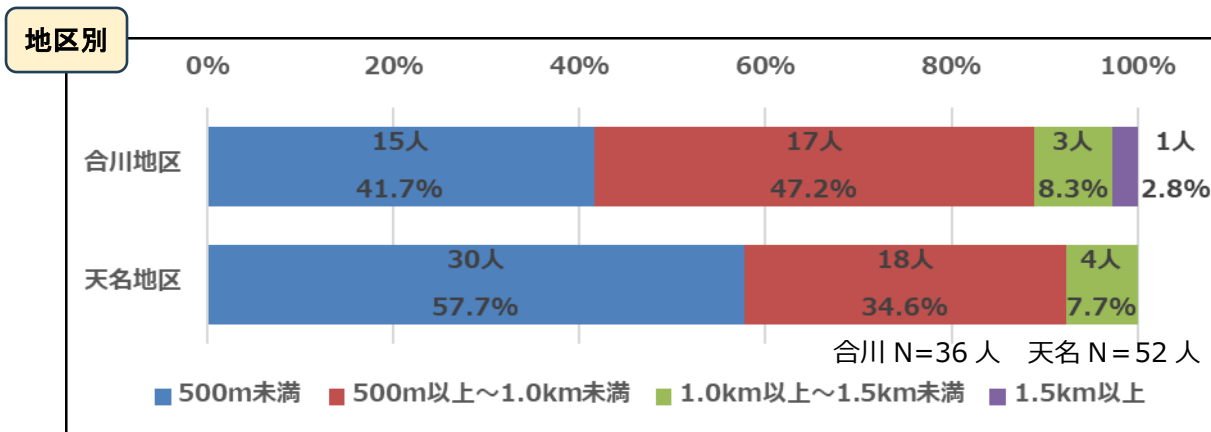
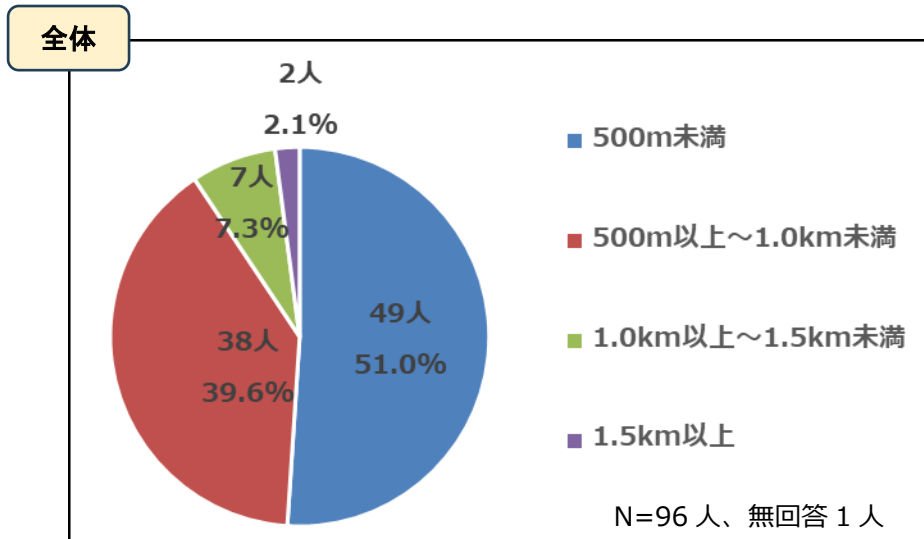
(11) 【問 11】スクールバスが導入された際の利用方法

「登校、下校に利用したい」が 96.3%である。学年による大きな差は見られない。



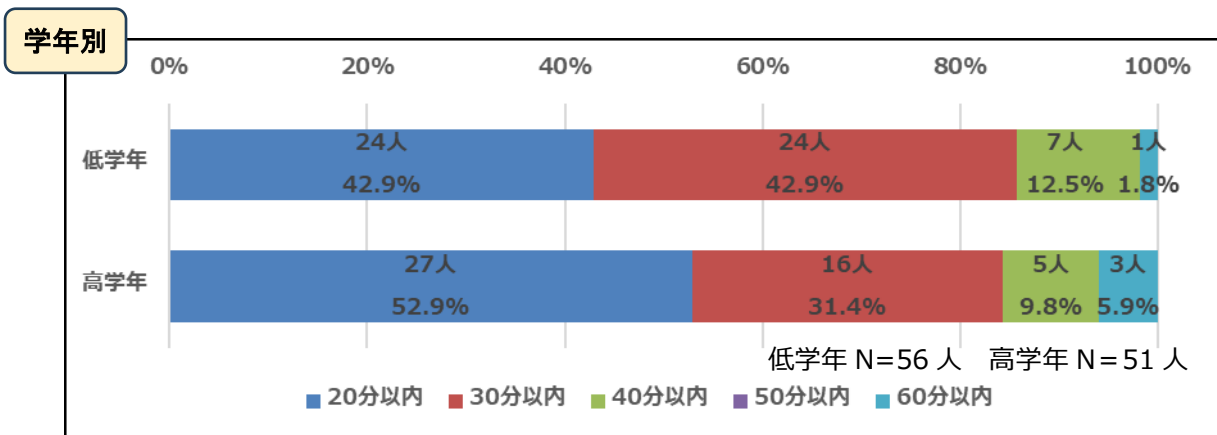
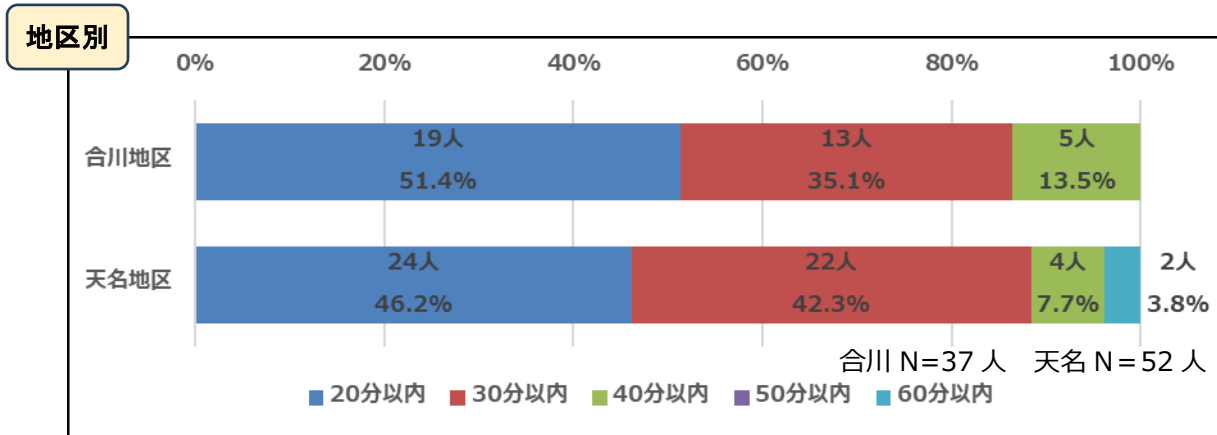
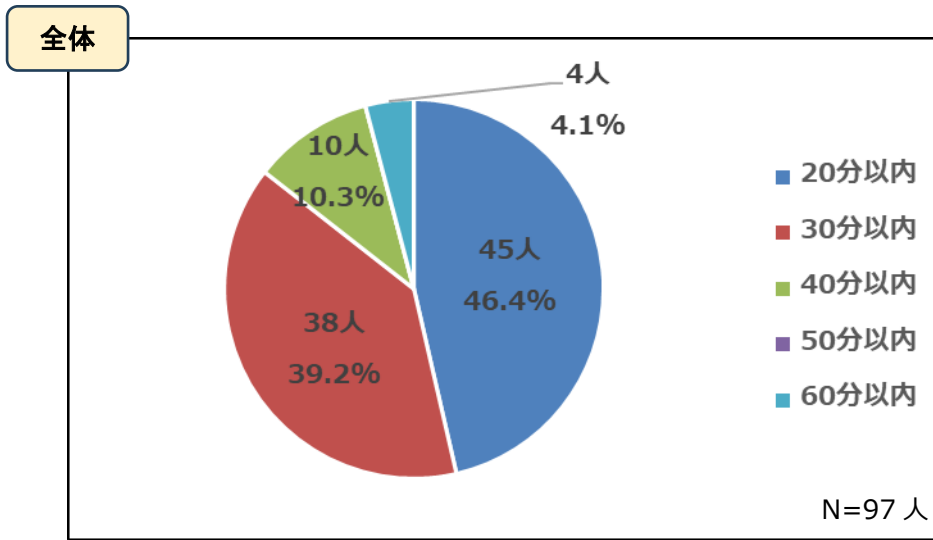
(12) 【問 12】 自宅から乗降場所までの適切な距離

「500m 未満」と考える割合が 51.0%と最も多く、次いで「500m ～ 1.0km 未満」が 39.6%である。学年による大きな差は見られないが、天名地区の場合、「500m 未満」と考える割合が 57.7%と多い。



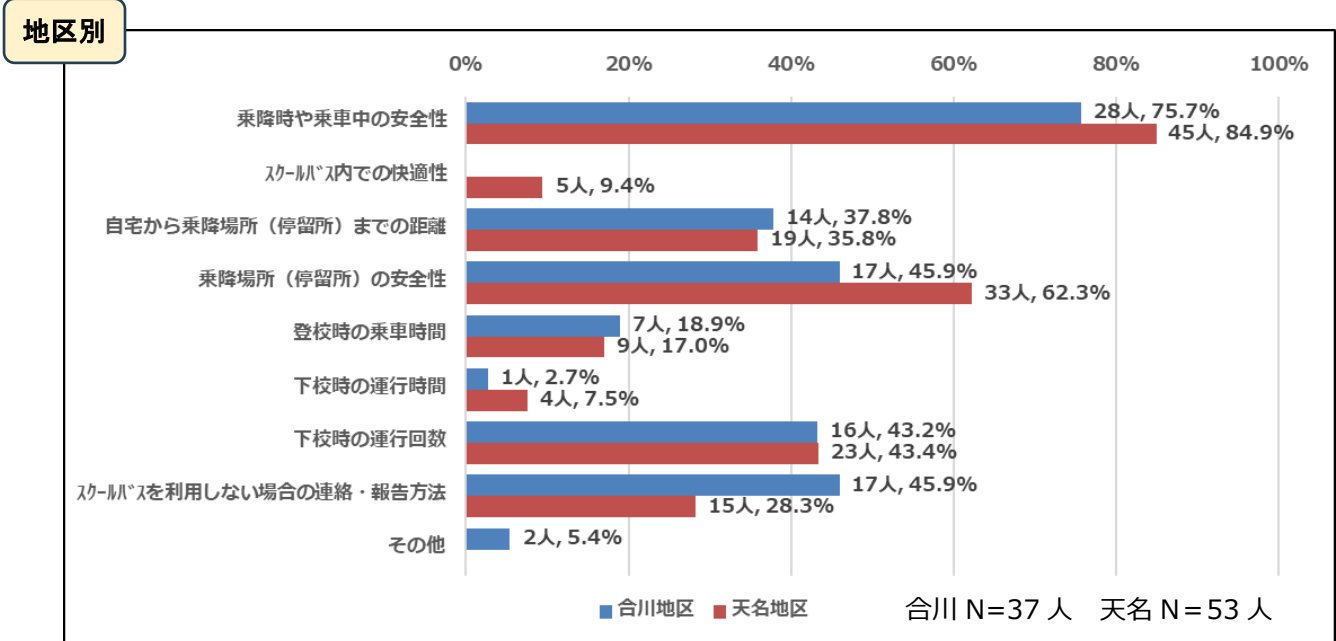
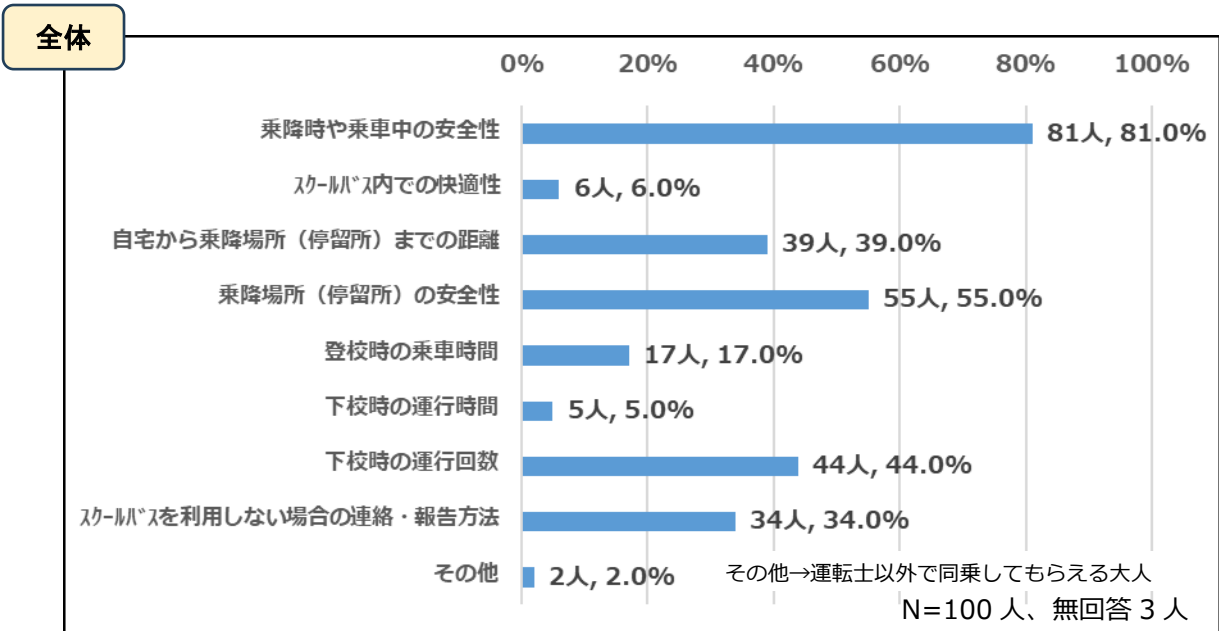
(13) 【問 13】スクールバスの適切な乗車時間

「20 分以内」が 46.4%と最も多く、次いで「30 分以内」が 39.2%である。地区や学年による大きな差は見られない。



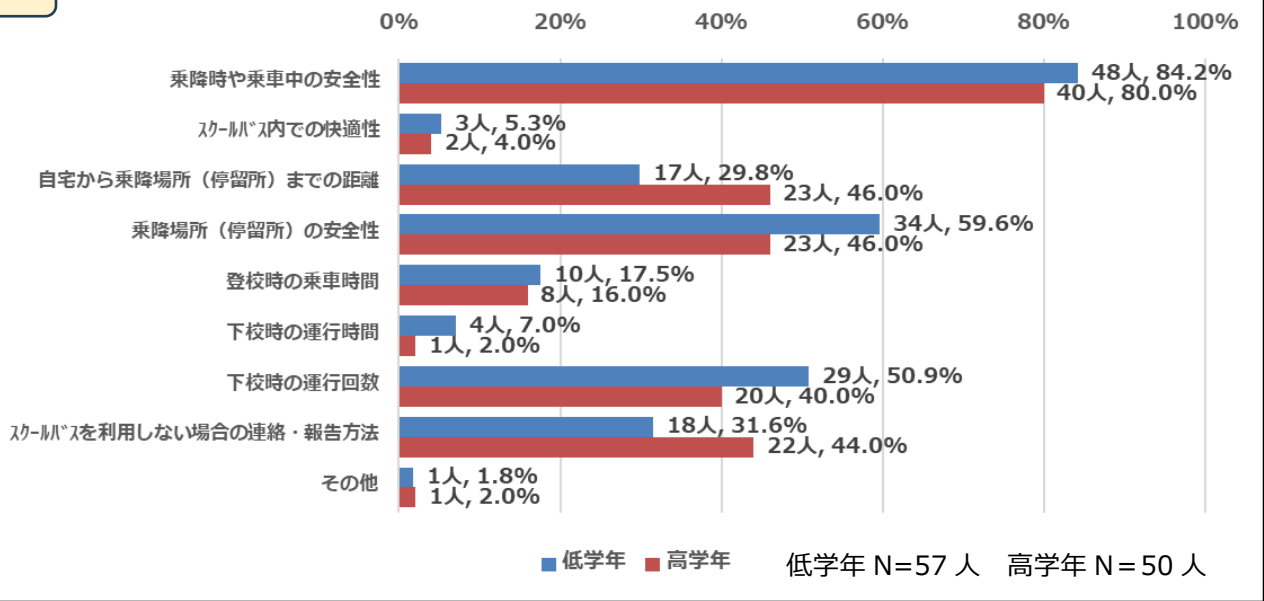
(14) 【問 14】スクールバス運行で重視する点（最大3つまで選択）

「乗降時や乗車中の安全性」が 81.0%と最も多く、次いで「乗降場所（停留所）の安全性」が 55.0%、「下校時の運行回数」が 44.0%である。地区や学年によって大きな差は見られない。



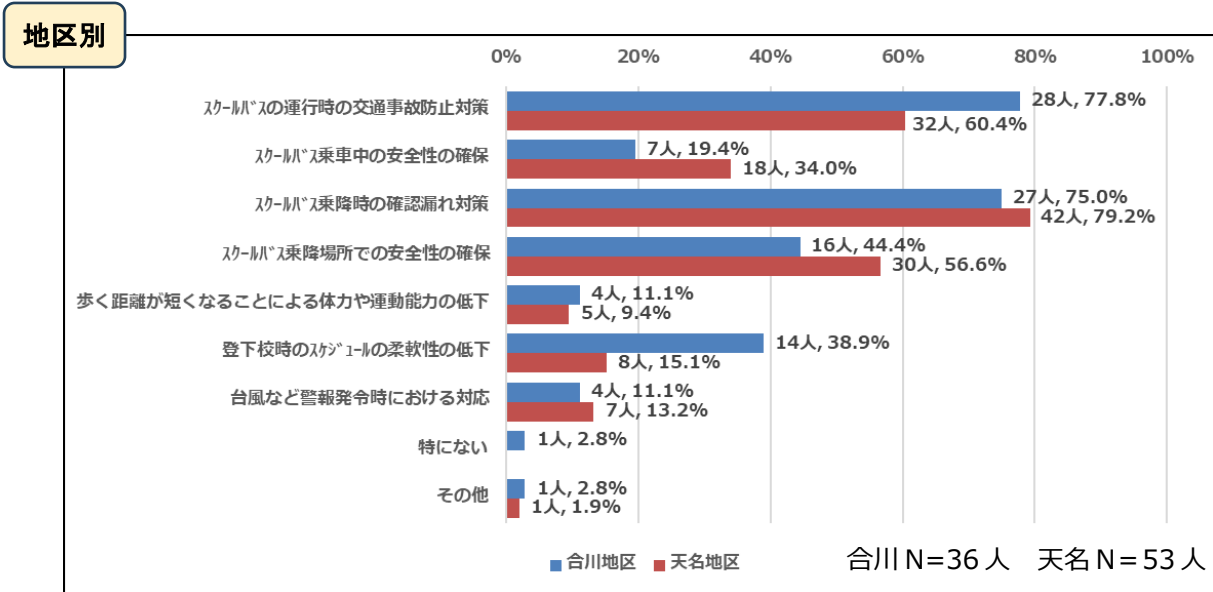
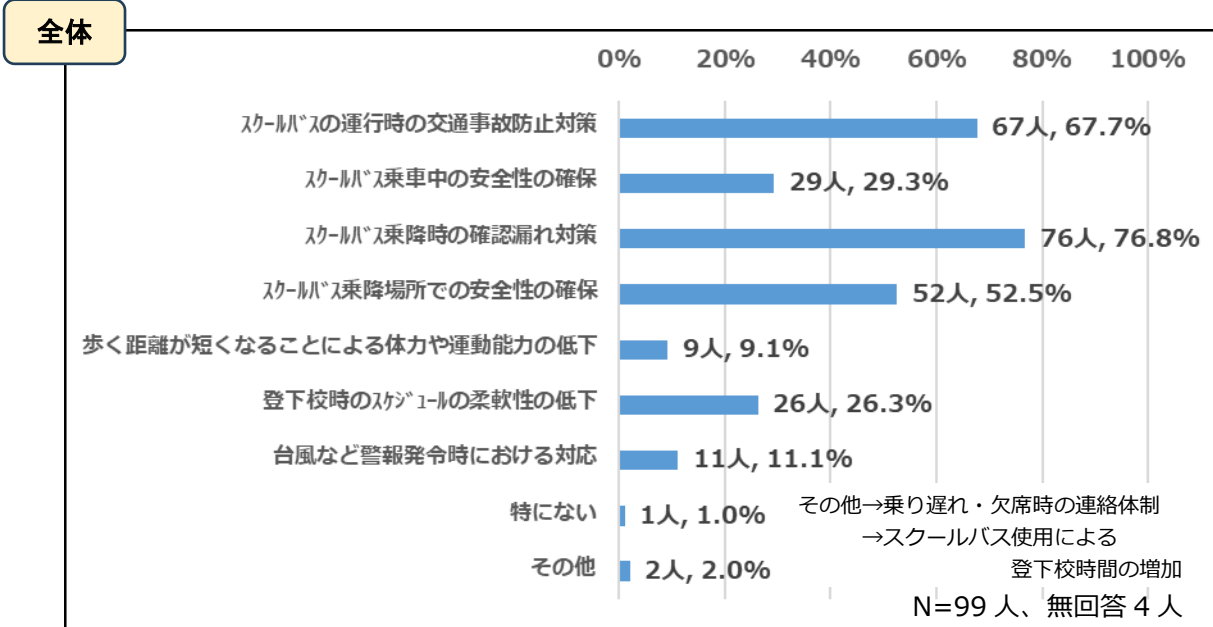


学年別

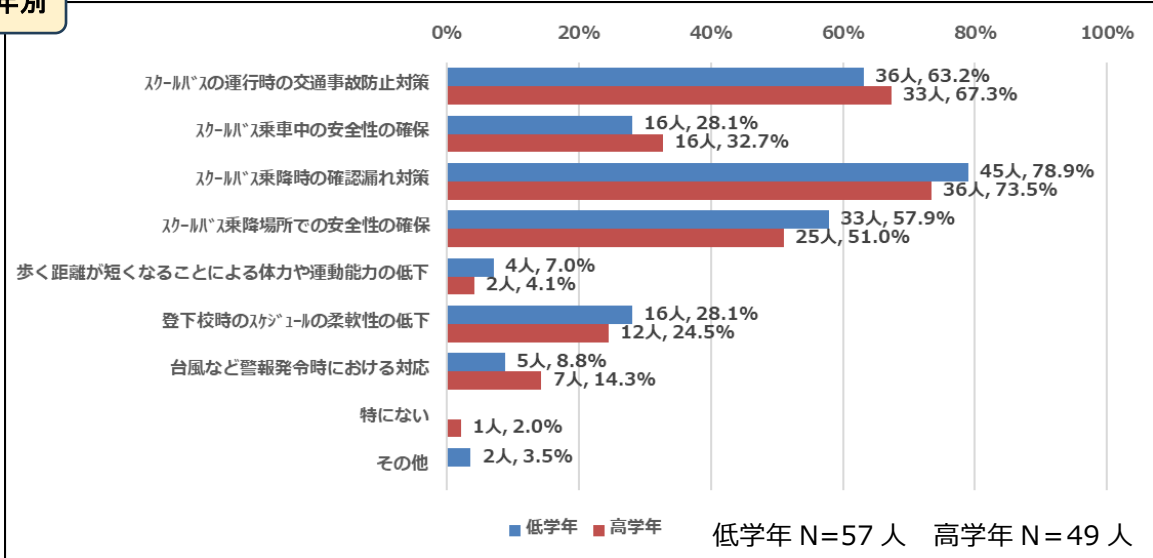


(15) 【問 15】スクールバス運行に伴う懸念（最大3つまで選択）

「スクールバス乗降時の確認漏れ対策」が76.8%と最も多く、次いで「スクールバスの運行時の交通事故防止対策」が67.7%である。合川地区の場合、「登下校時のスケジュールの柔軟性の低下」が全体の38.9%で、天名地区に比べて多い。



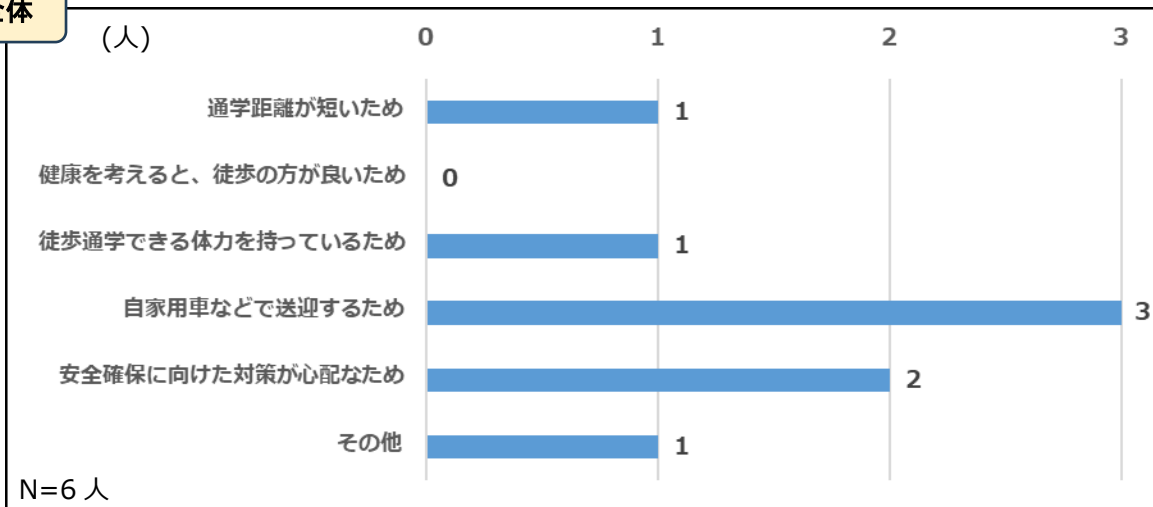
学年別



(16) 【問 16】スクールバスを希望しない理由 (最大3つまで選択)

「自家用車などで送迎するため」が3人と最も多い。

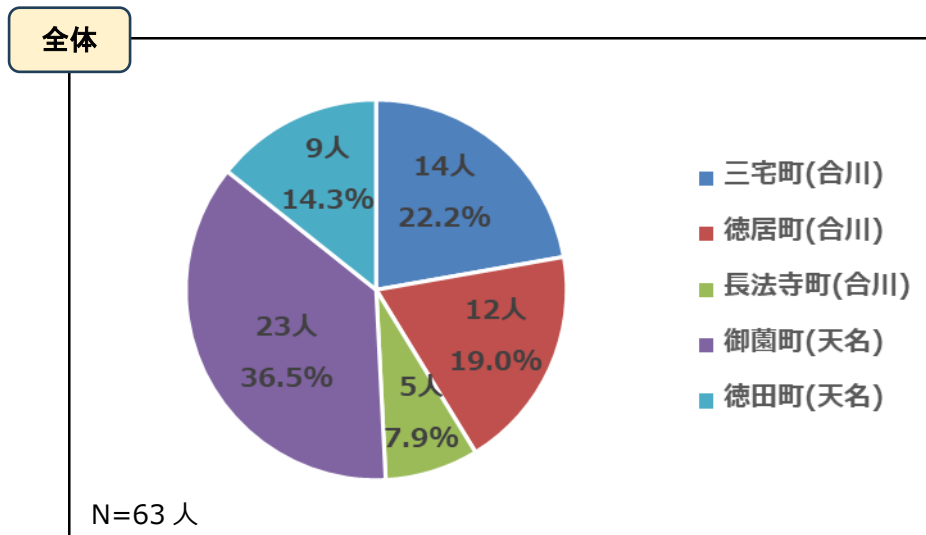
全体



## 2.3. アンケート結果の整理【調査票B（未就学児の保護者向け）】

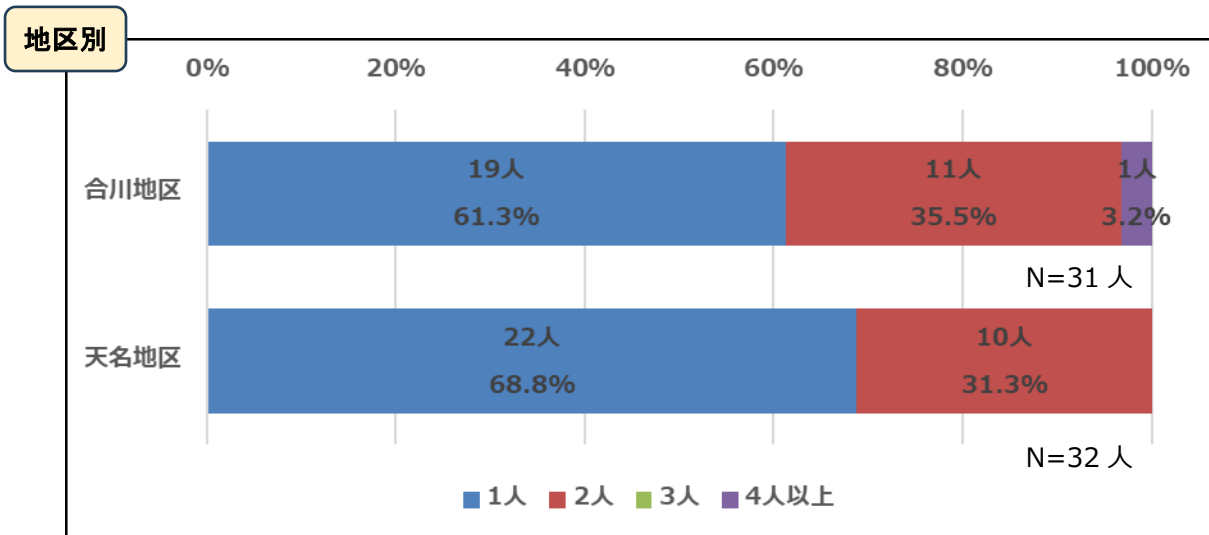
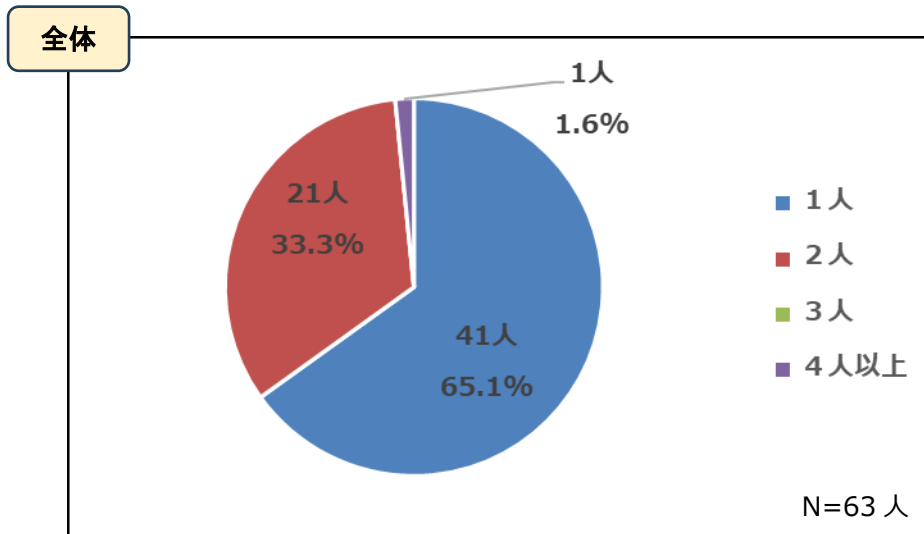
### (1) 【問1】 在住地区

「御菌町(天名地区)」が36.5%と最も多く、次いで「三宅町(合川地区)」が22.2%、「徳居町(合川地区)」が19.0%となっている。



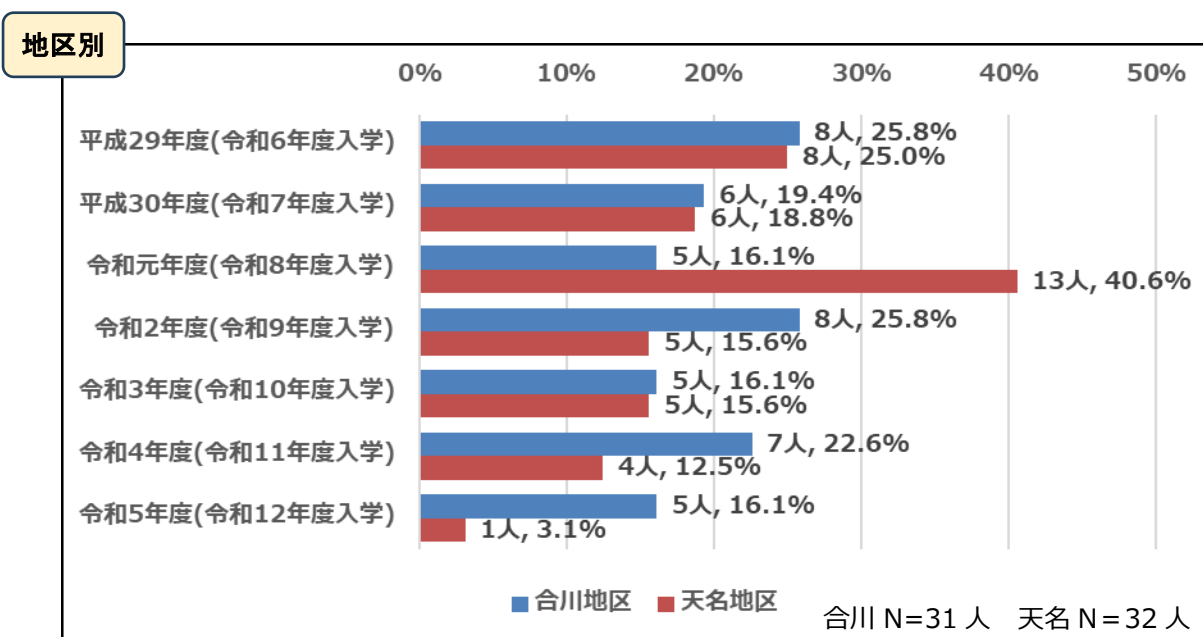
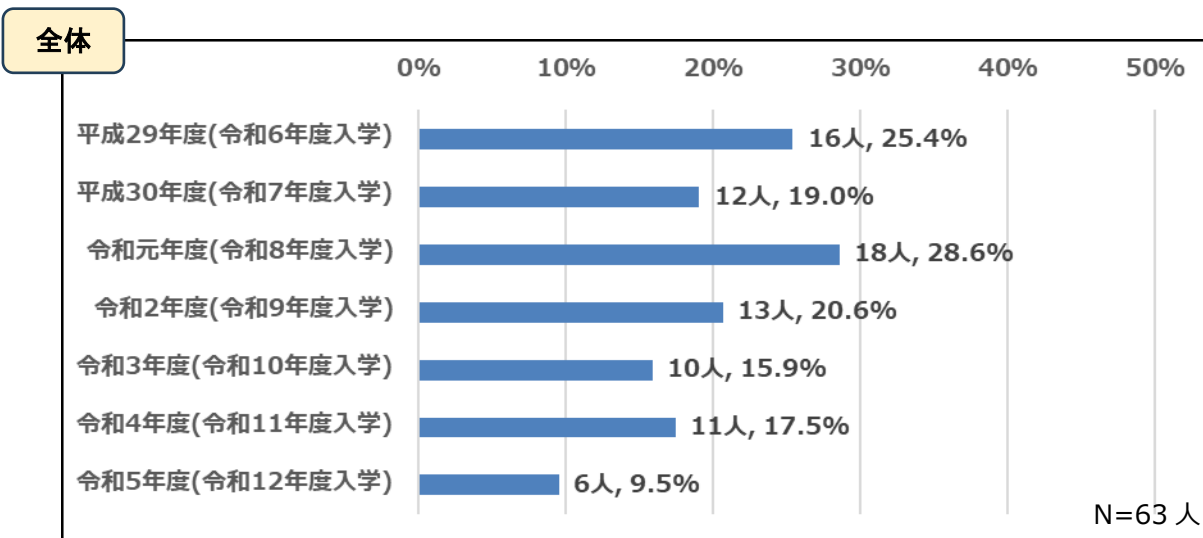
(2) 【問 2】 未就学児の人数

未就学児が1人のケースが65.1%である。地区による大きな差は無い。



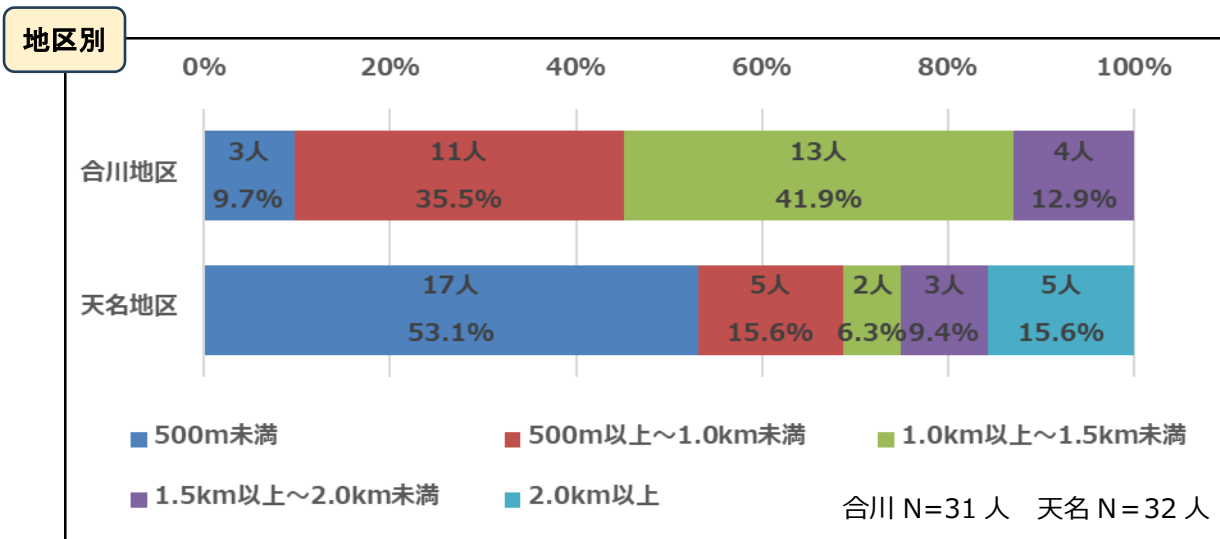
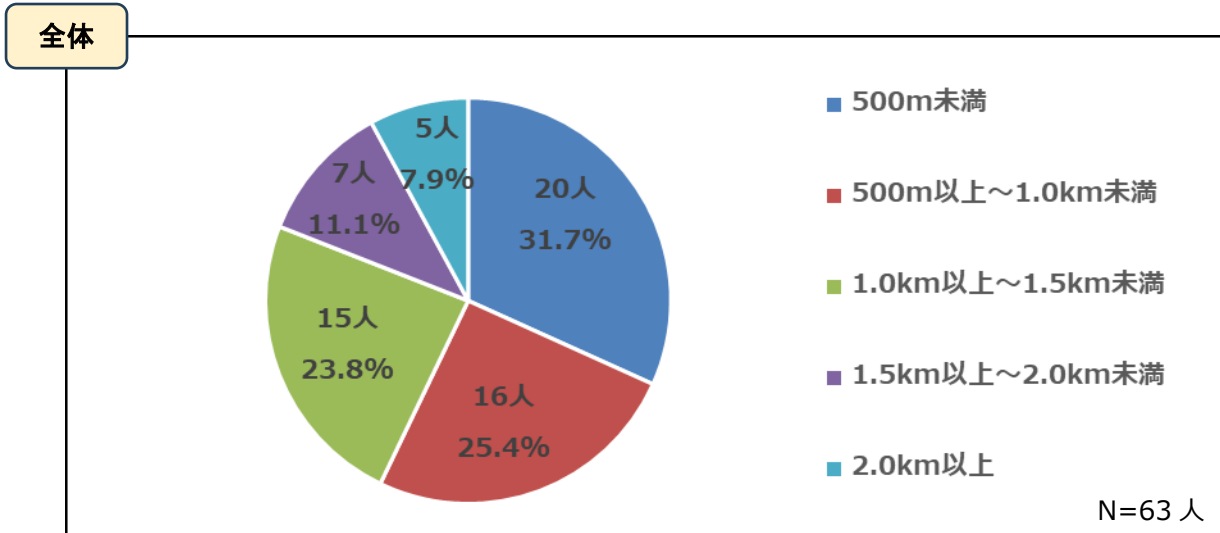
(3) 【問3】未就学児の出生時期（複数回答あり）

平成29年度生まれ（令和6年度入学）から令和4年度生まれ（令和11年度入学）は、毎年度10人以上である。



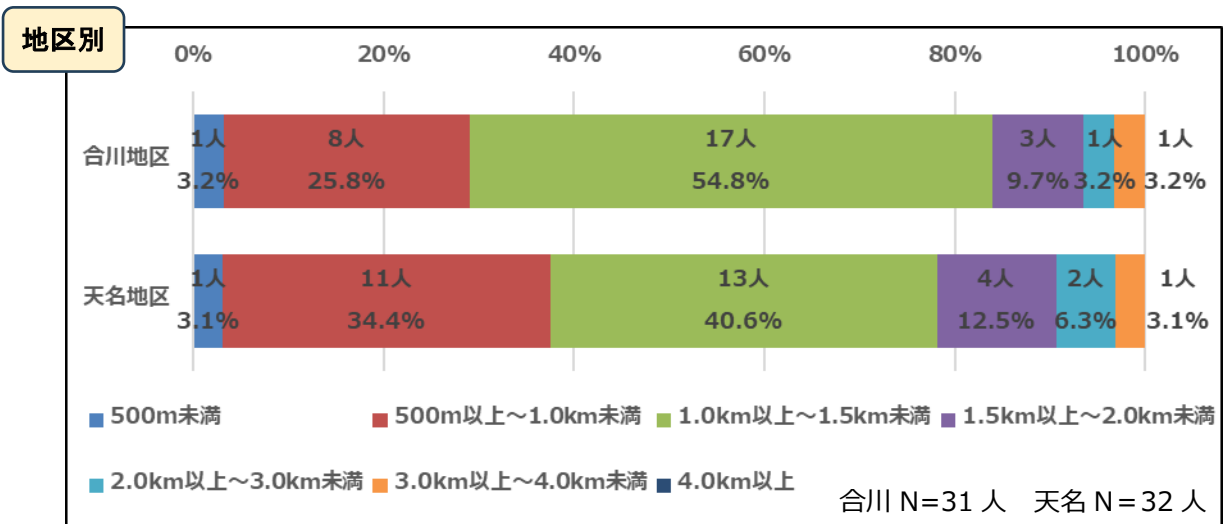
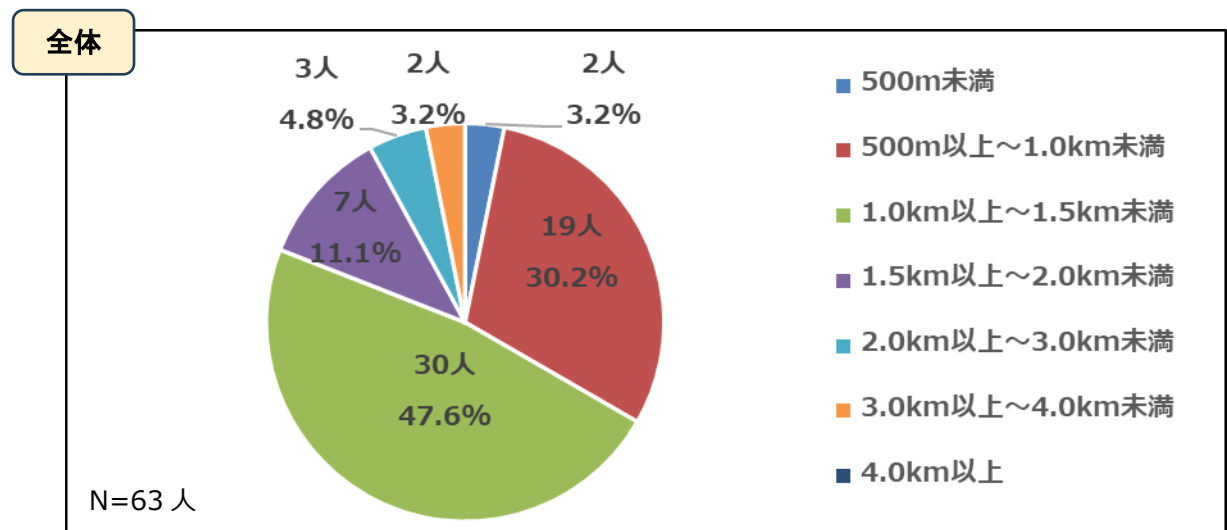
(4) 【問4】 自宅から最寄りの小学校までの距離

「500m 未満の範囲」が 31.7%と最も多く、次いで「500m 以上～1.0km 未満の範囲」が 25.4%、「1.0km 以上～1.5km 未満の範囲」が 23.8%となっている。天名地区の場合、「500m 未満の範囲」が 53.1%で、合川地区に比べて小学校までの距離が比較的短い。



(5) 【問5】児童にとって適切な通学距離

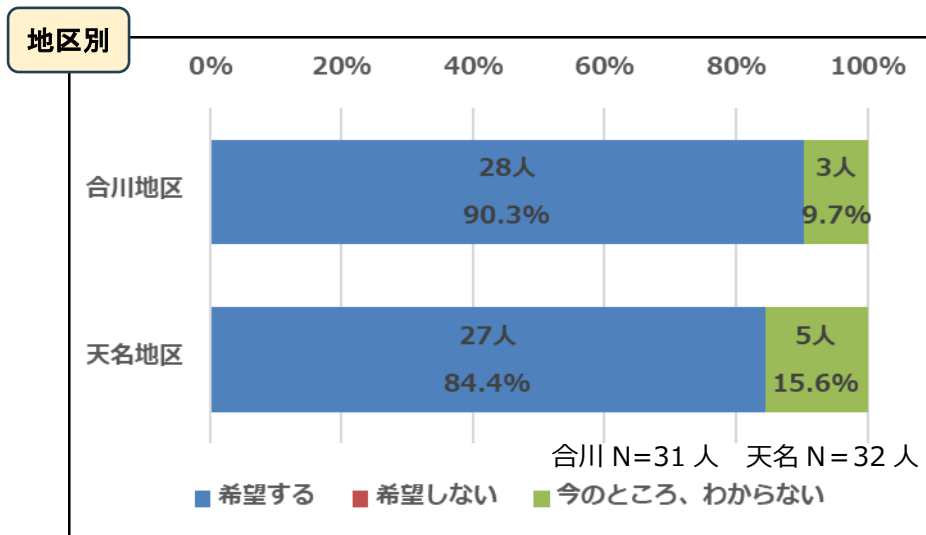
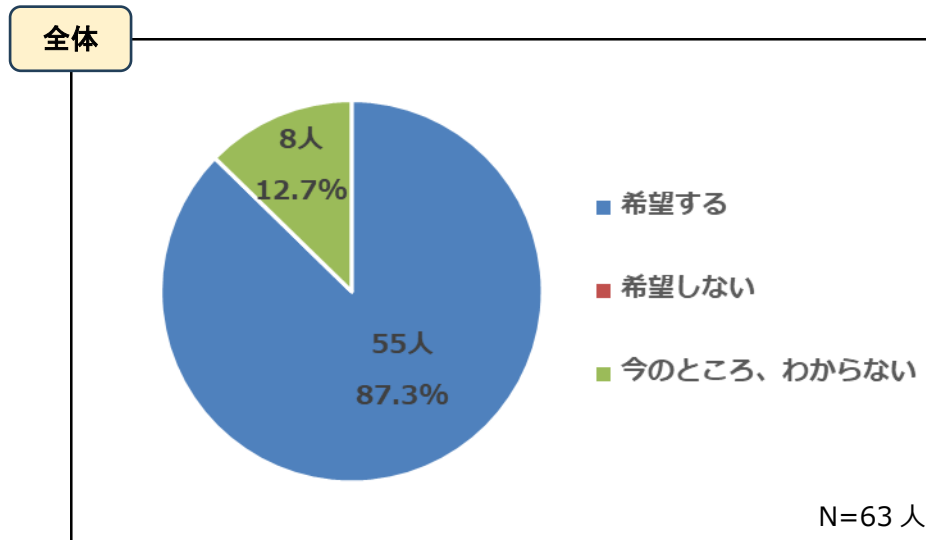
「1.0 km以上～1.5km 未満」が 47.6%と最も多く、次いで「500m 以上～1.0 km未満」が 30.2%である。地区による大きな差はない。





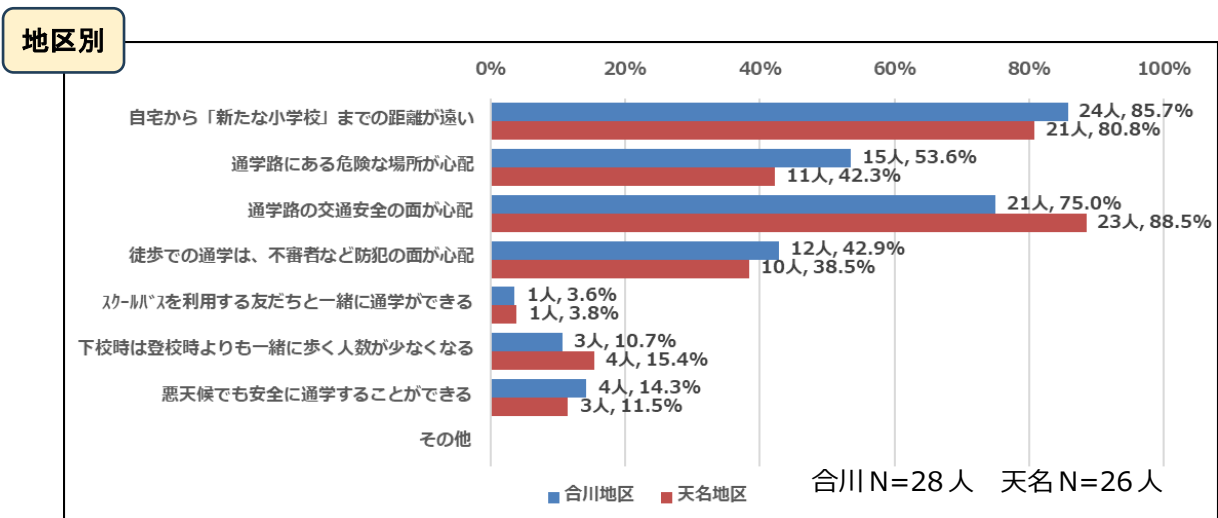
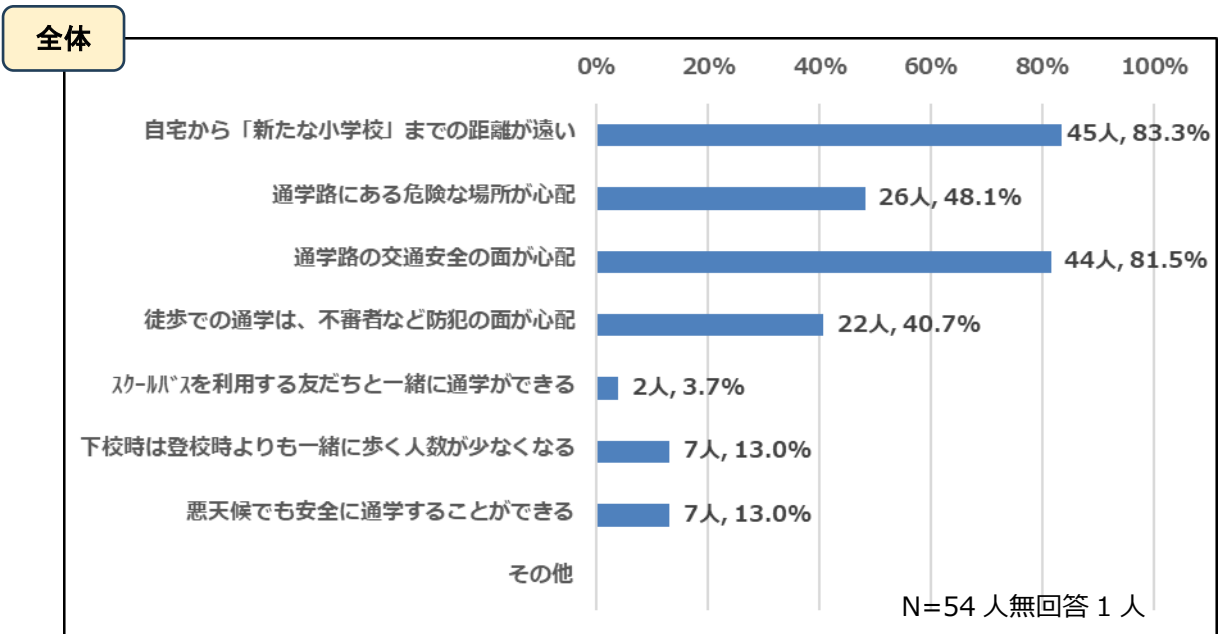
(6) 【問 6】スクールバスの利用希望

「希望する」が 87.3%である。「希望しない」と答えた人はいない。



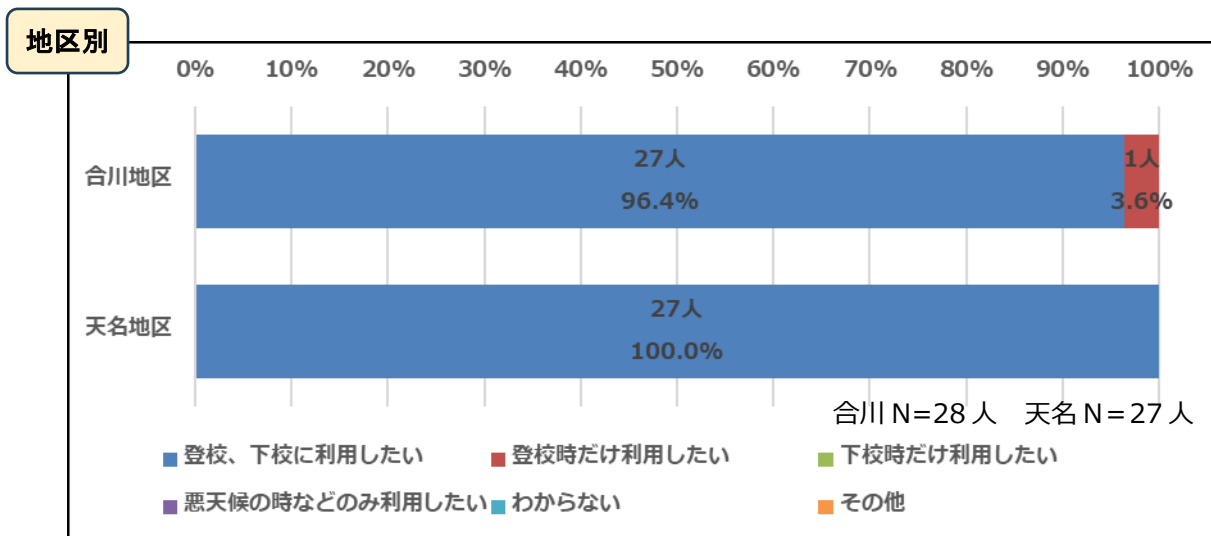
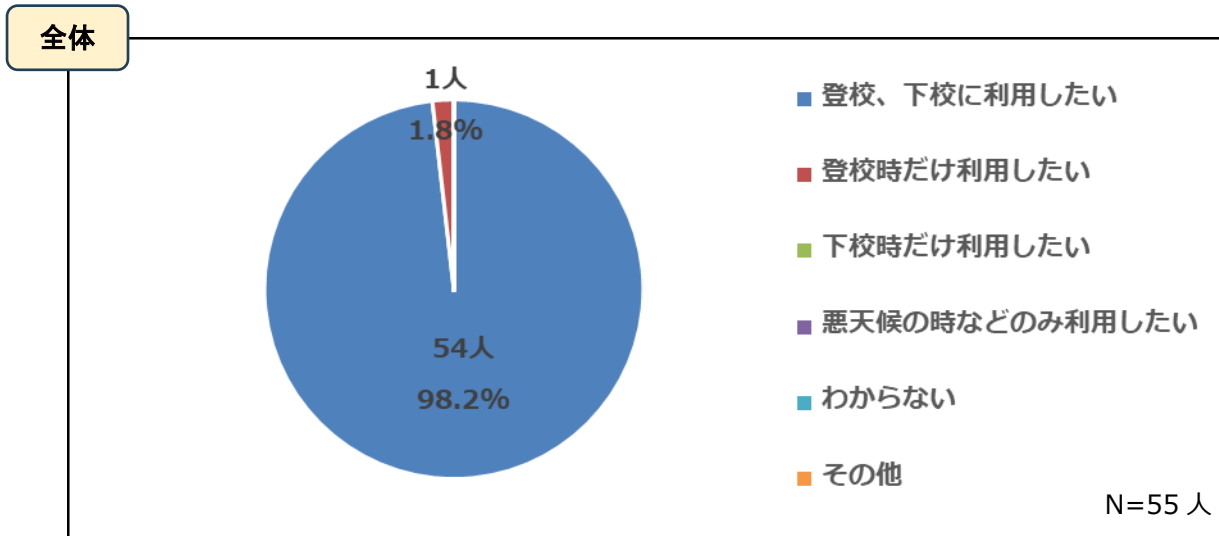
(7) 【問7】スクールバス利用希望の理由（最大3つまで選択）

「自宅から新たな小学校までの距離が遠いため」が83.3%と最も多く、次いで「通学路の交通安全の面が心配であるため」が81.5%である。地区による大きな差は無い。



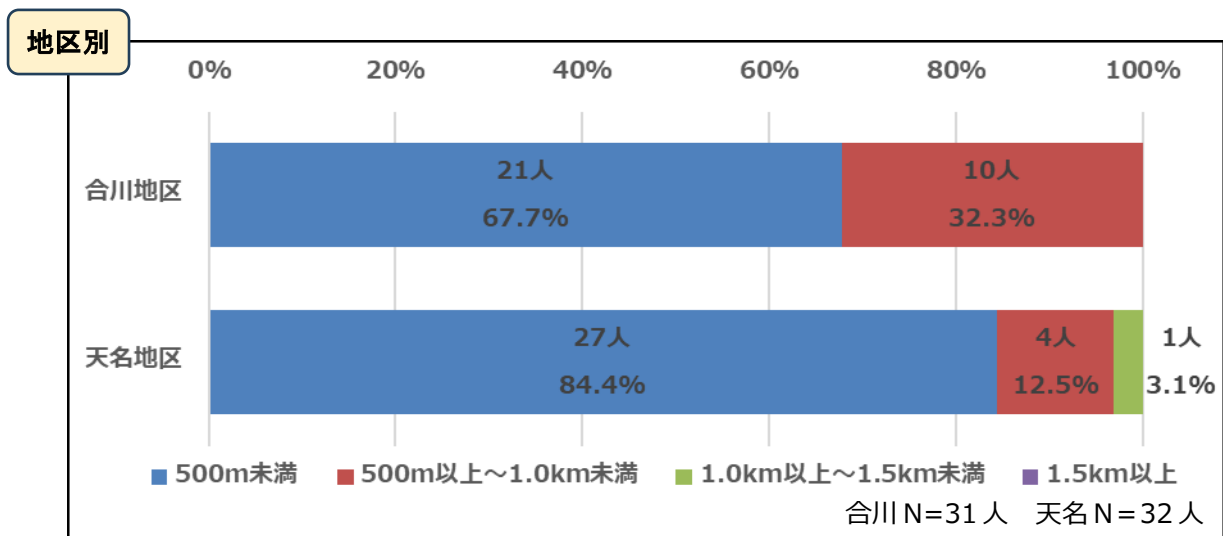
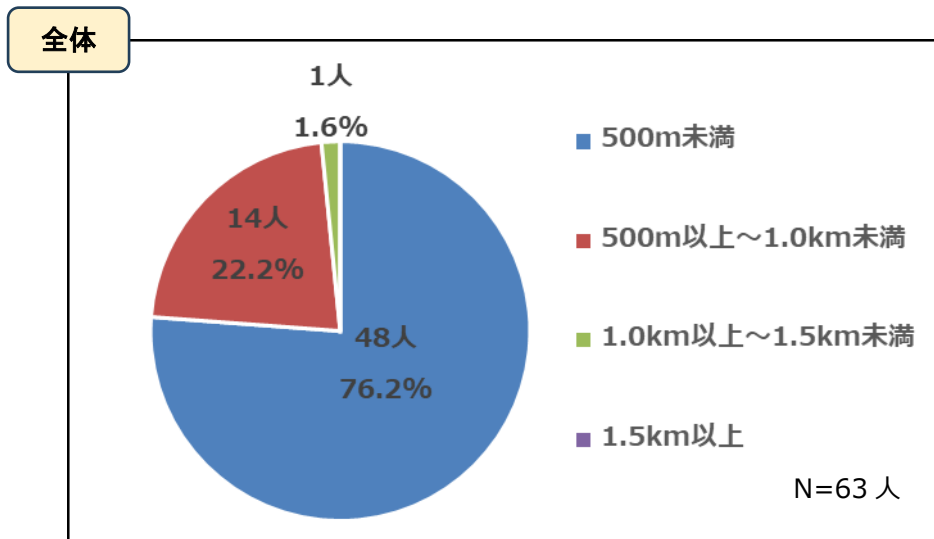
(8) 【問 8】スクールバスが導入された際の利用方法

「登校、下校に利用したい」が 98.2%である。



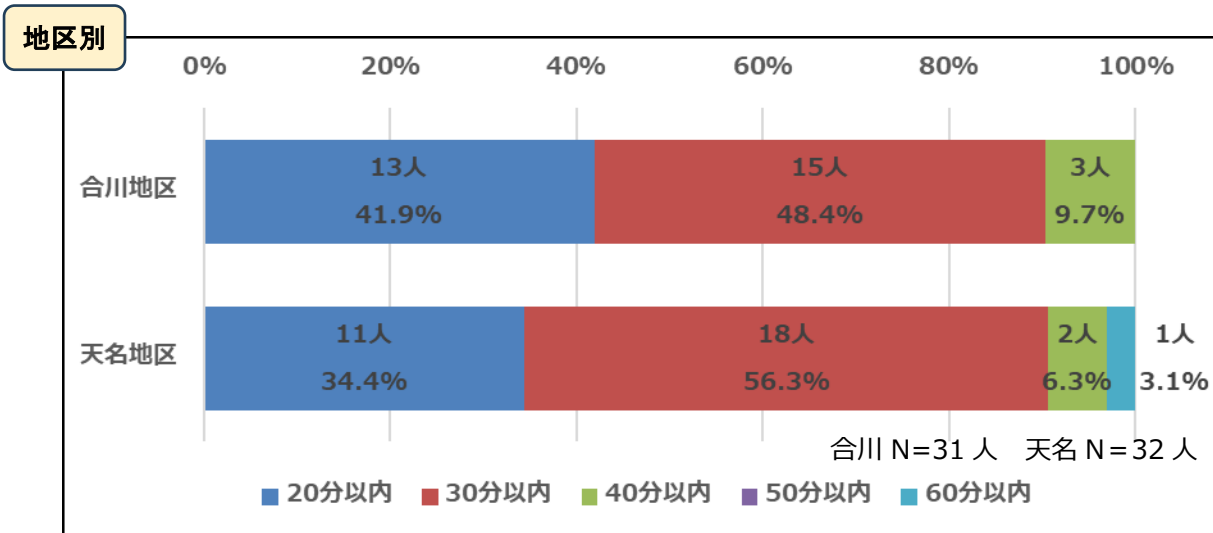
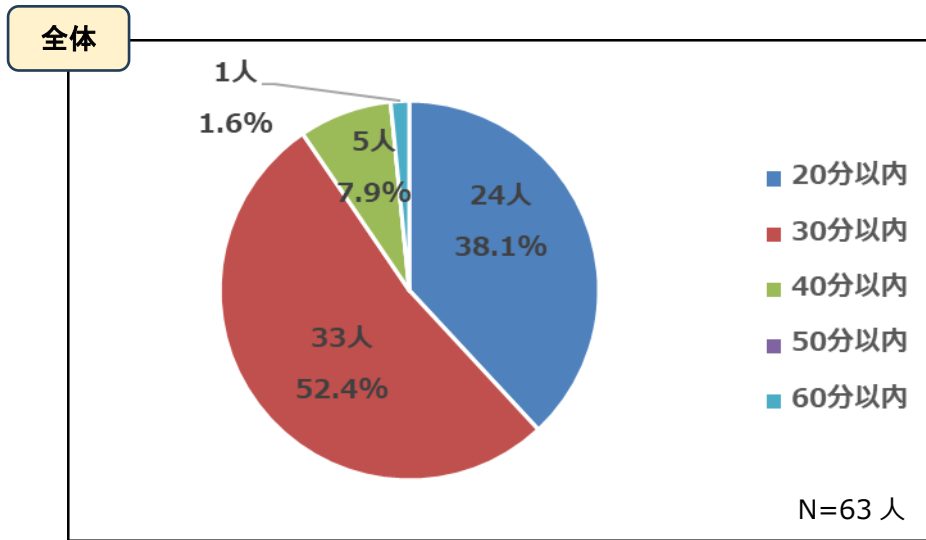
(9) 【問9】 自宅から乗降場所までの適切な距離

「500m未満」が76.2%と最も多く、次いで「500m以上～1.0km未満」が22.2%である。



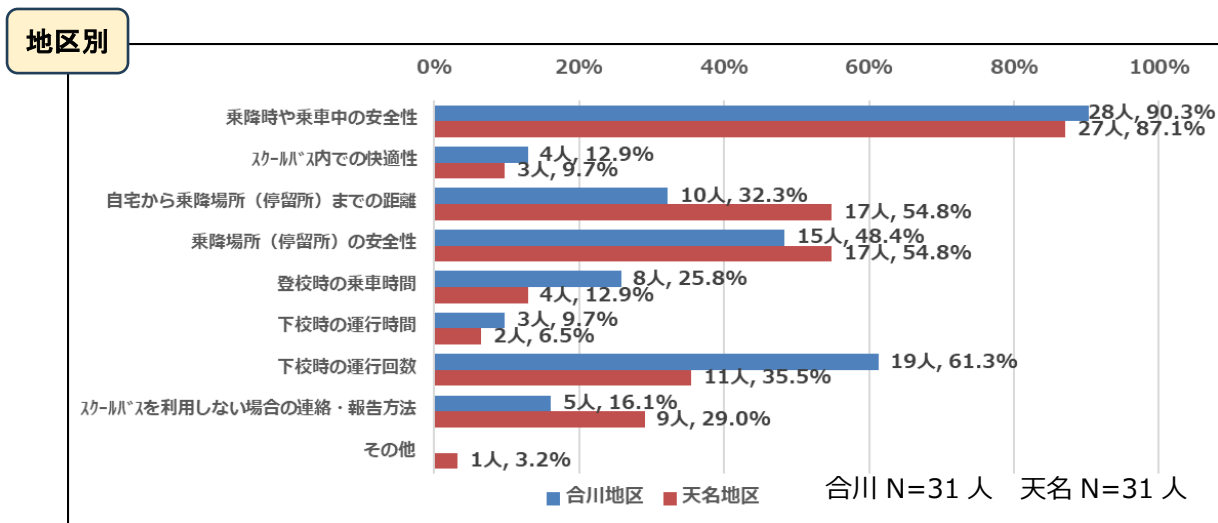
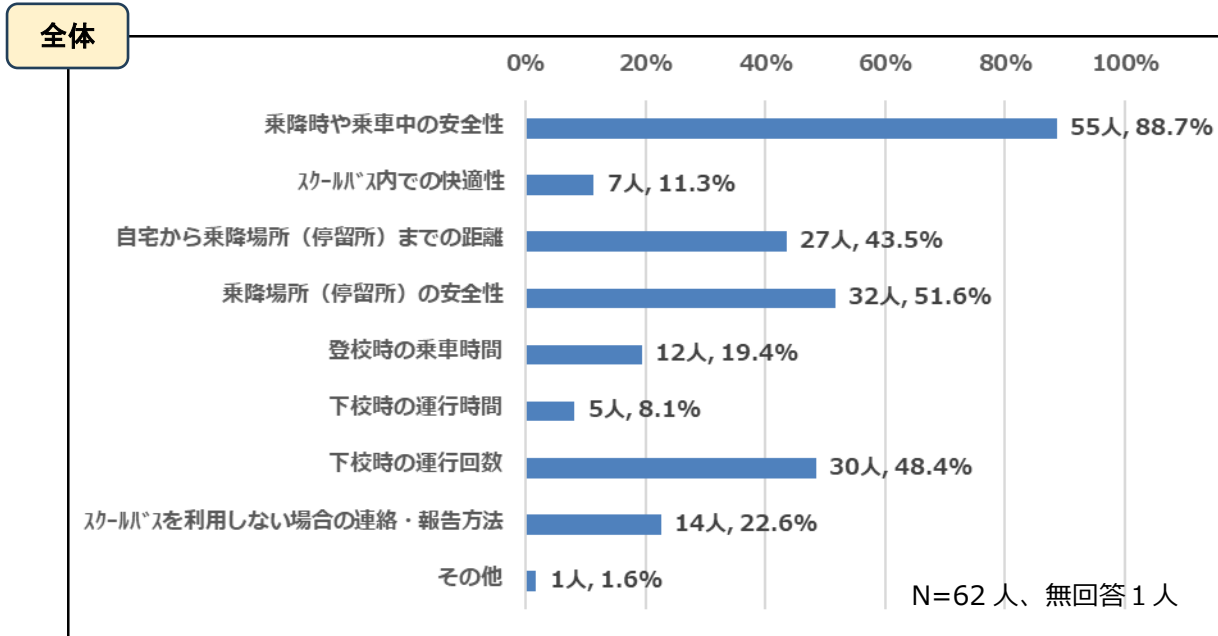
(10) 【問 10】スクールバスの適切な乗車時間

「30 分以内」が 52.4%と最も多く、次いで「20 分以内」が 38.1%である。地区による大きな差は無い。



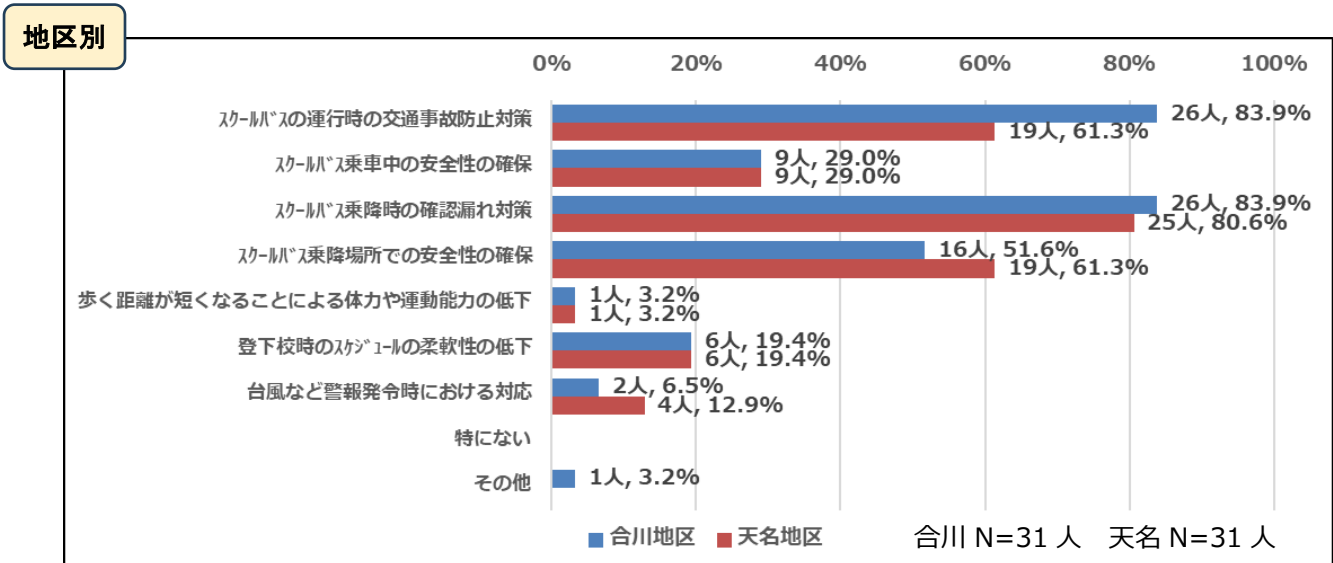
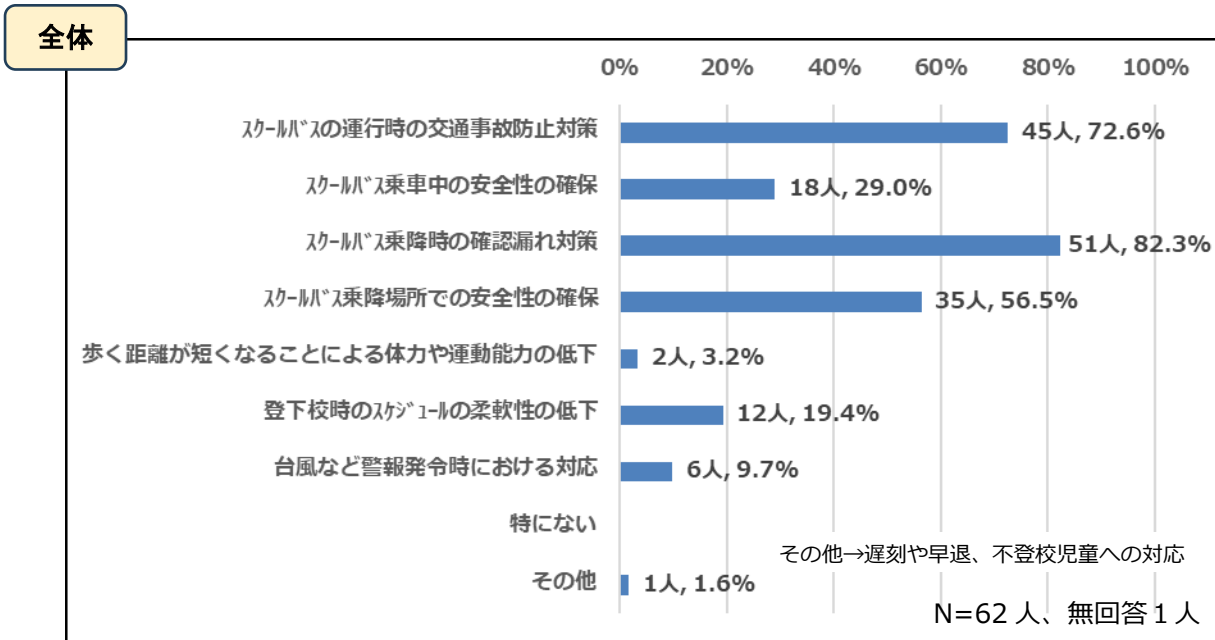
(11) 【問 11】スクールバス運行で重視する点（最大3つまで選択）

「乗降時や乗車中の安全性」が 88.7%と最も多く、次いで「乗降場所の安全性」が 51.6%、「下校時の運行回数」が 48.4%である。「自宅から乗降場所までの距離」は天名地区が 54.8%と合川地区に比べて多い一方、「下校時の運行回数」は合川地区が 61.3%と天名地区に比べて多い。



(12) 【問 12】 スクールバス運行に伴う懸念（最大3つまで選択）

「スクールバス乗降時の確認漏れ対策」が 82.3%と最も多く、次いで「スクールバスの運行時の交通事故防止対策」が 72.6%、「スクールバス乗降場所での安全性の確保」が 56.5%である。

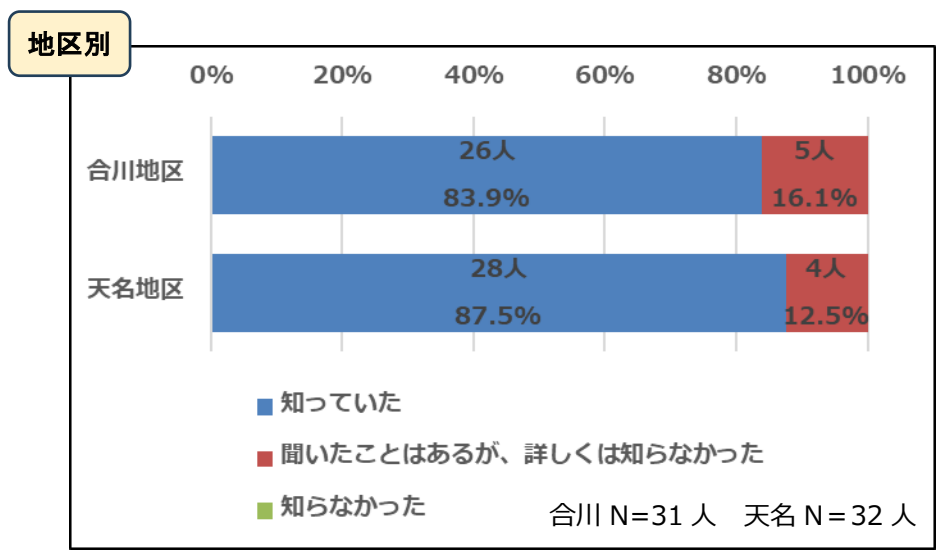
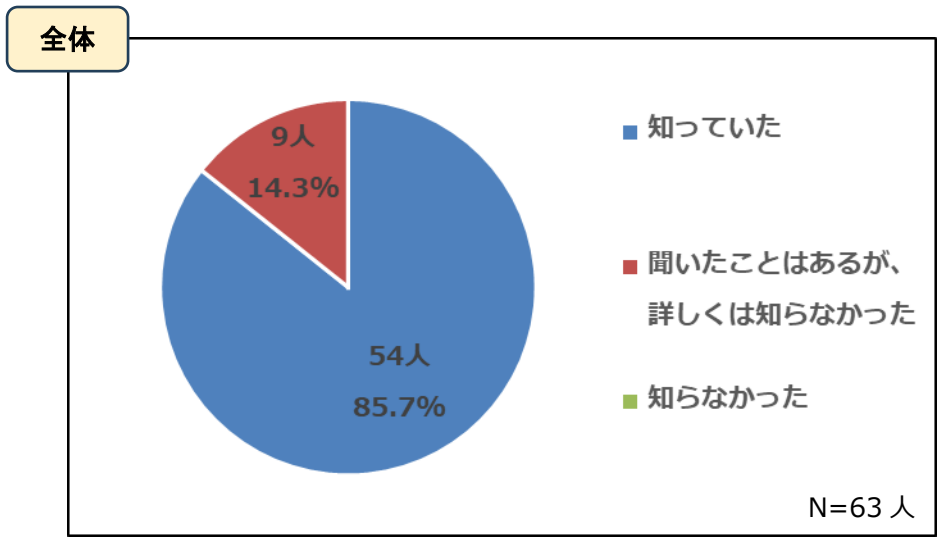


(13) 【問 13】 スクールバスを希望しない理由

「スクールバス利用を希望しない」と回答したのは0人であった。

(14) 【問 14】 学校再編の内容に関する認知

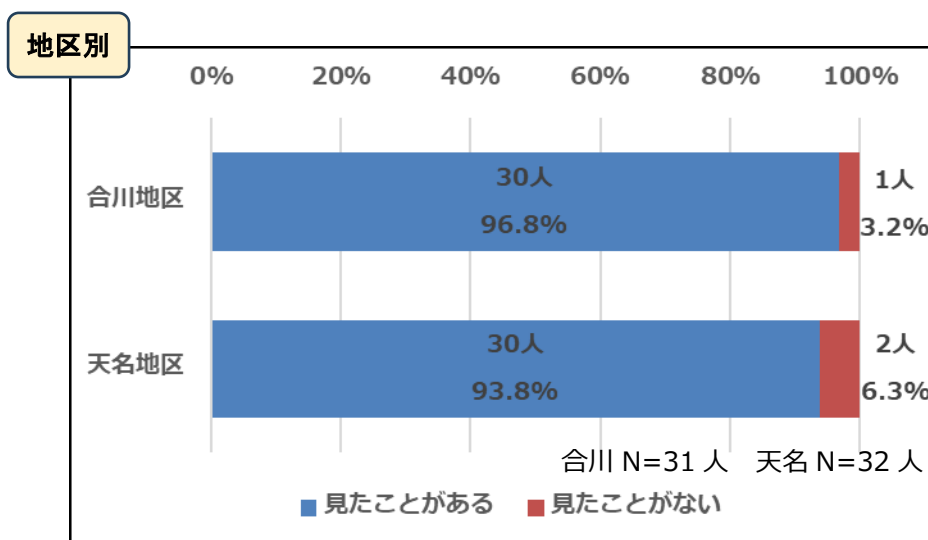
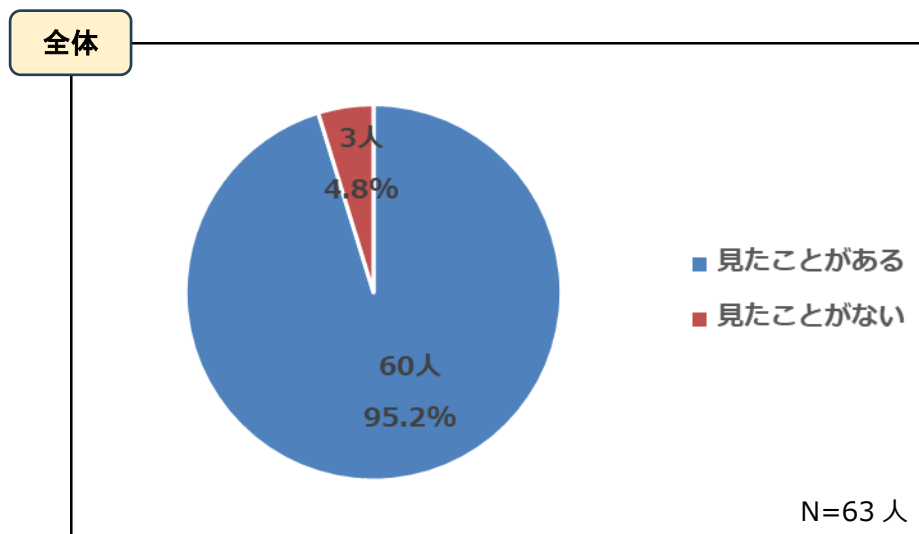
「知っていた」が 85.7%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」が 14.3%となっている。「知らなかった」と答えた人はいない。





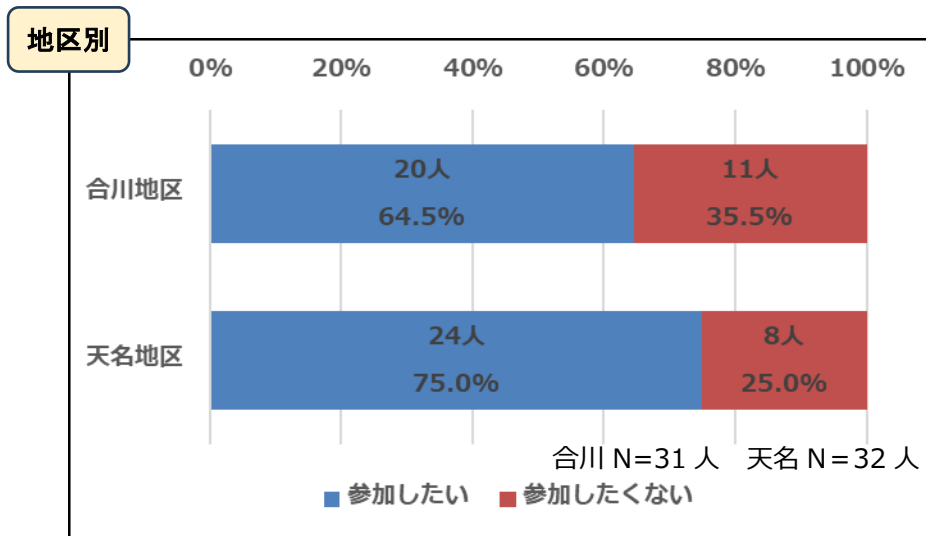
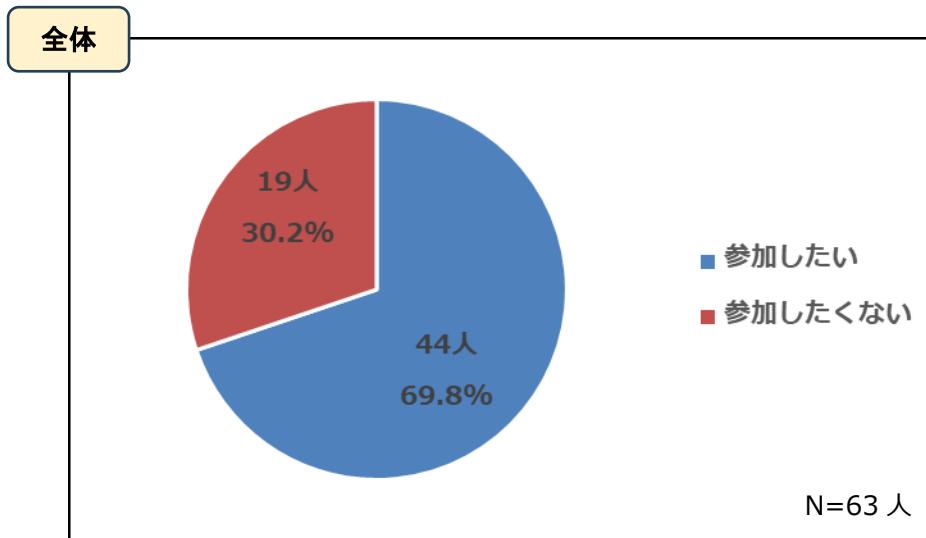
(15) 【問 15】 教育委員会からのお知らせの認知

「見たことがある」が 95.2%である。



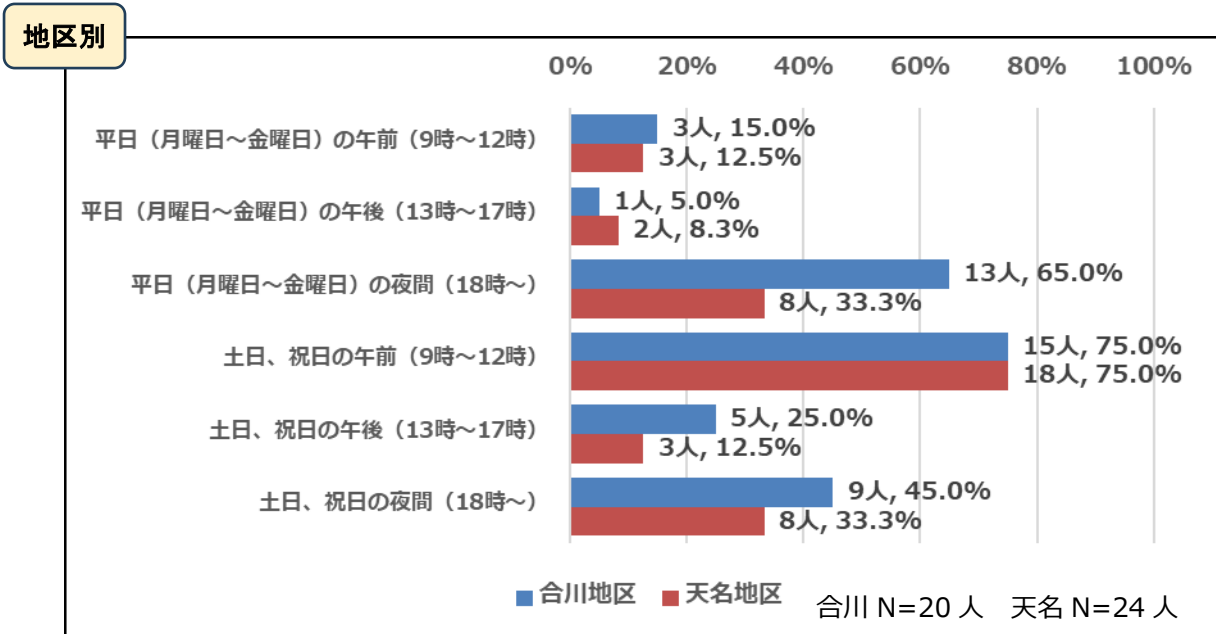
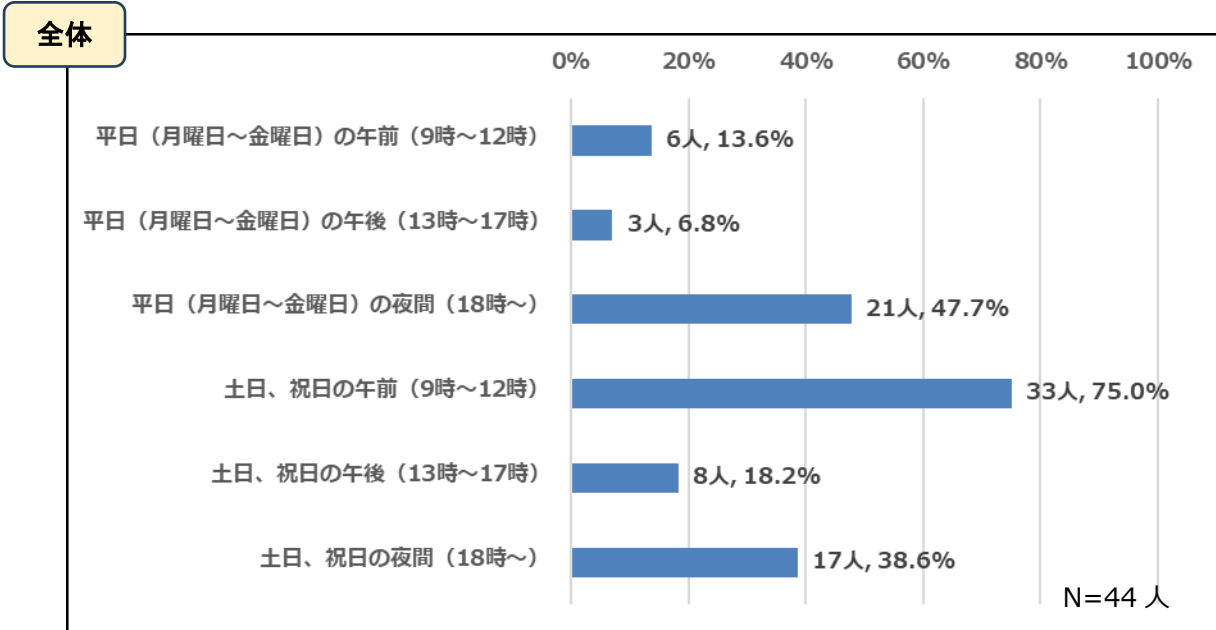
(16) 【問 16】 学校再編についての意見交換会への参加希望

「参加したい」が 69.8%、「参加したくない」が 30.2%である。合川地区の 64.5%、天名地区の 75.0%が「参加したい」としている。



(17) 【問 17】 学校再編についての意見交換会の希望日時

「土日、祝日の午前（9時～12時）」が75.0%と最も多い。



## 2.4. アンケート結果の分析

### (1) スクールバス利用希望の理由

児童の保護者、未就学児の保護者のいずれも、現在の小学校までの距離より「新たな小学校までの距離が遠い」、「通学路の交通安全の面が心配」であることがスクールバス利用希望の理由として多い。

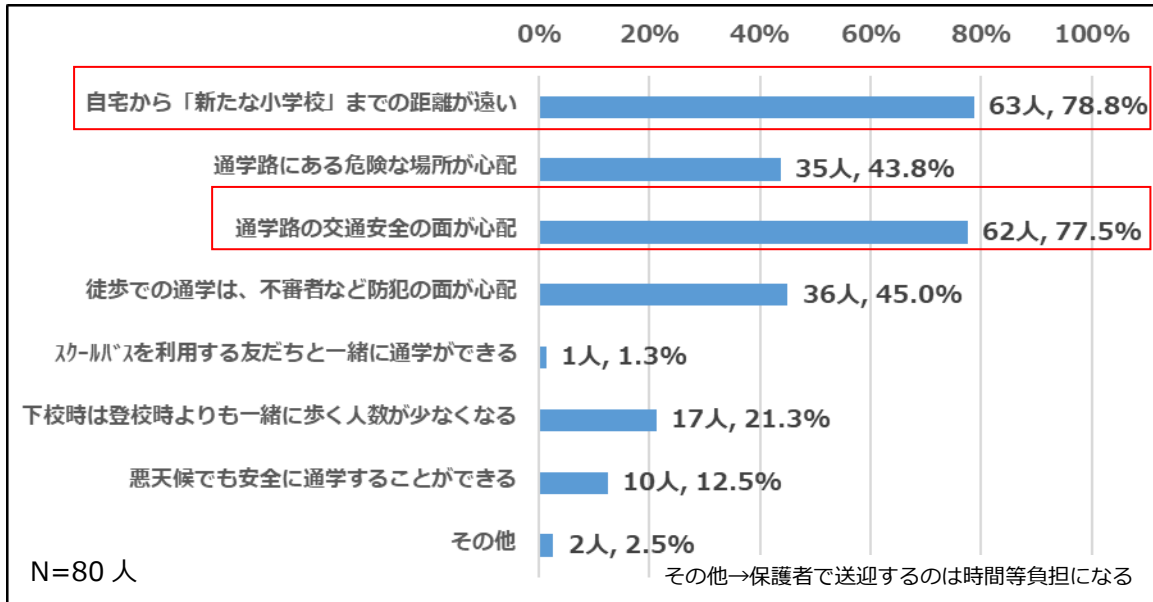


図 2 【再掲】スクールバス利用希望の理由<児童の保護者の場合>

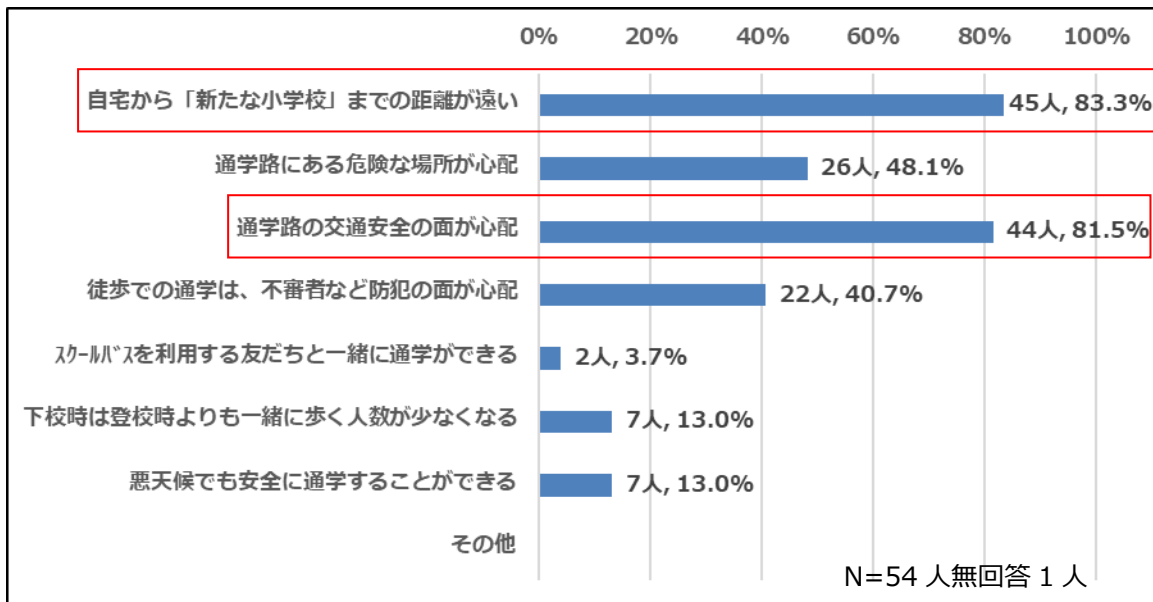


図 3 【再掲】スクールバス利用希望の理由<未就学児の保護者の場合>

## (2) 自宅から乗降場所までの適切な距離

自宅からスクールバス乗降場所までの適切な距離について、児童の保護者の場合、51.0%が「500m未満」、90.6%が「1.0km未満」が適切であると考えている。

一方、未就学児の保護者の場合、76.2%が「500m未満」、98.4%が「1.0km未満」が適切であると考えており、児童の保護者に比べて短めに回答している傾向にあるが、これは、小学校への通学経験の有無が影響していると考えられる。

児童の保護者、未就学児の保護者の共通認識として、「自宅から乗降場所までの距離は、1km未満が適切」と考えている。

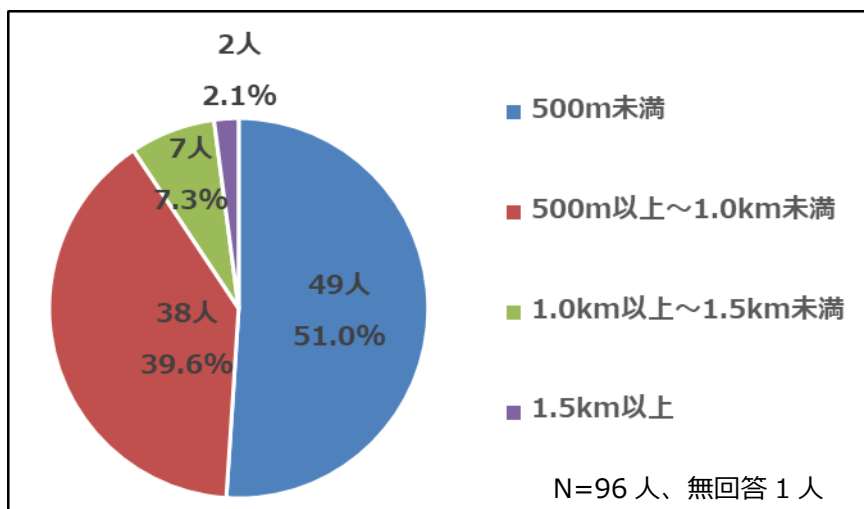


図4 【再掲】自宅から乗降場所までの適切な距離<児童の保護者の場合>

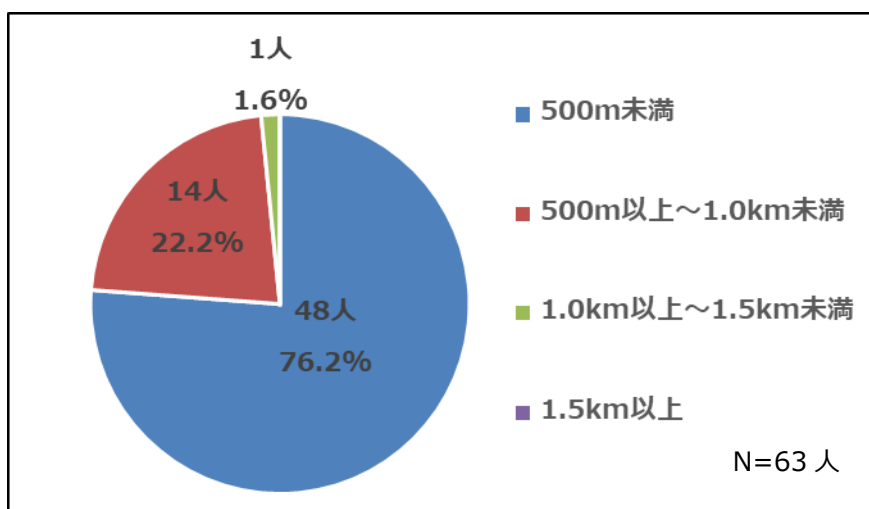


図5 【再掲】自宅から乗降場所までの適切な距離<未就学児の保護者の場合>

### (3) スクールバスの乗車時間

スクールバスの乗車時間について、児童の保護者の場合、46.4%が「20分以内」、39.2%が「30分以内」と回答している。

一方、未就学児の保護者の場合、38.1%が「20分以内」、52.4%が「30分以内」と回答している。

児童の保護者、未就学児の保護者で若干の差が見られるものの、「スクールバスの乗車時間は、おおむね30分以内が適切と考えており、最大でも40分以内にするべきである」と考えている。

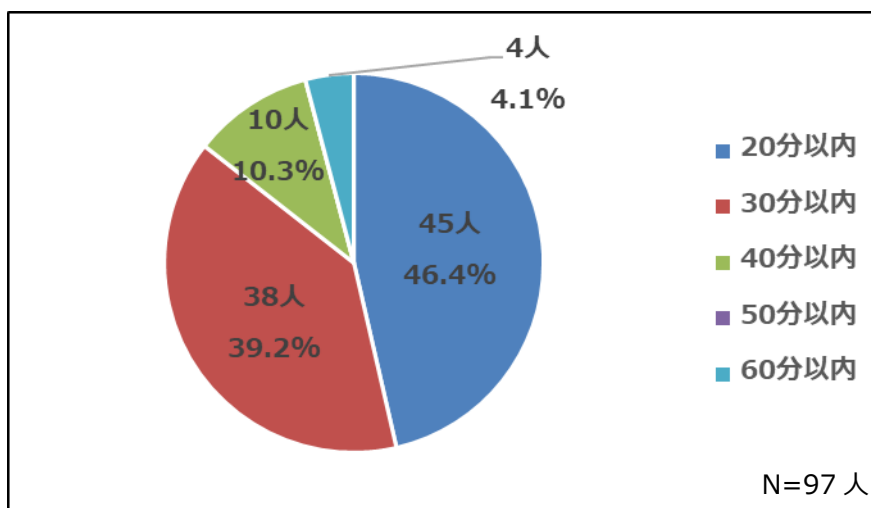


図 6 【再掲】スクールバスの乗車時間<児童の保護者の場合>

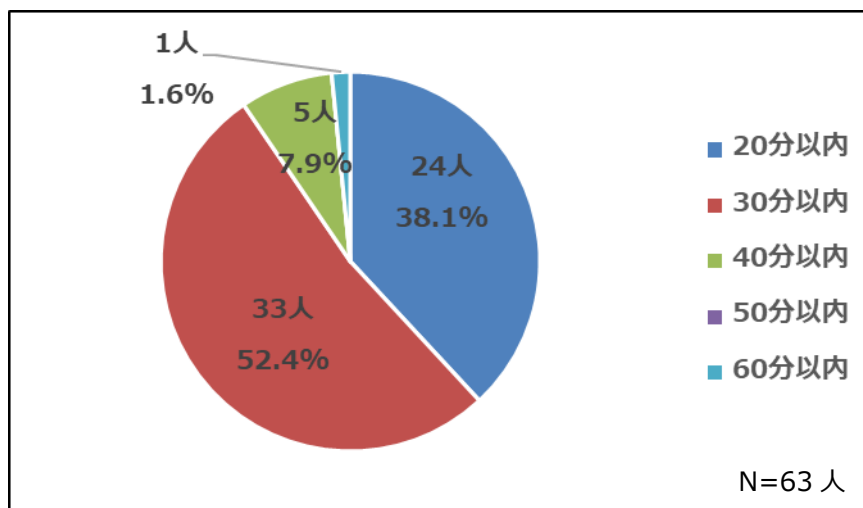


図 7 【再掲】スクールバスの乗車時間<未就学児の保護者の場合>

#### (4) スクールバス運行で重視する点

スクールバス運行で重視する点について、児童の保護者、未就学児の保護者で傾向の変化は見られず、共通して「乗降時や乗車中の安全性」の回答が最も多い。

また、「自宅から乗降場所までの距離」「乗降場所の安全性」「下校時の運行回数」も重視している。

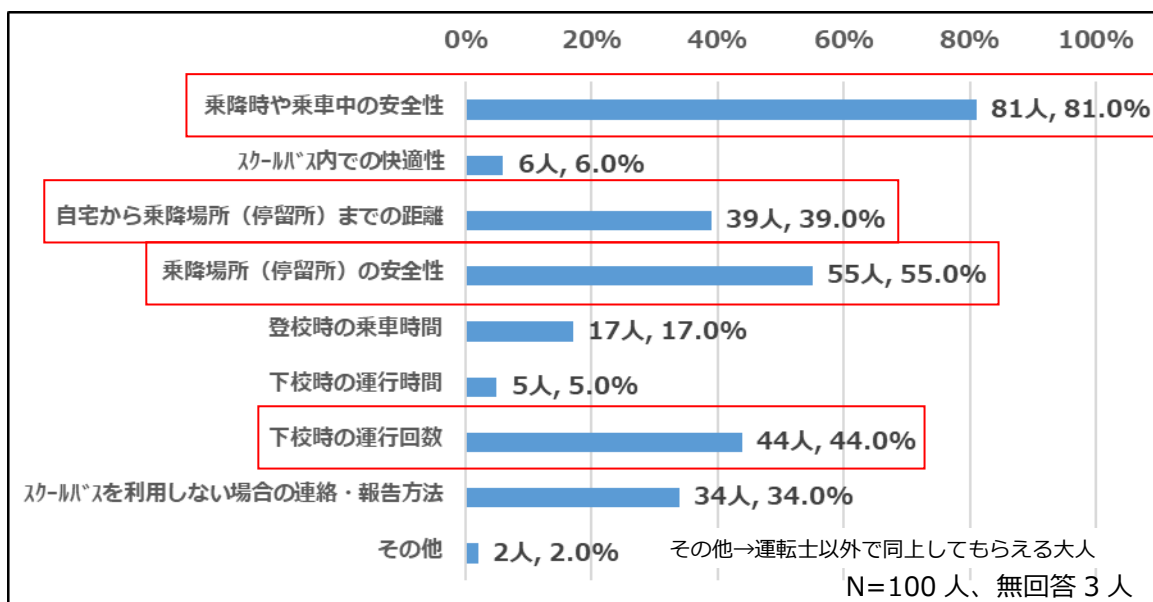


図 8 【再掲】スクールバス運行で重視する点<児童の保護者の場合>

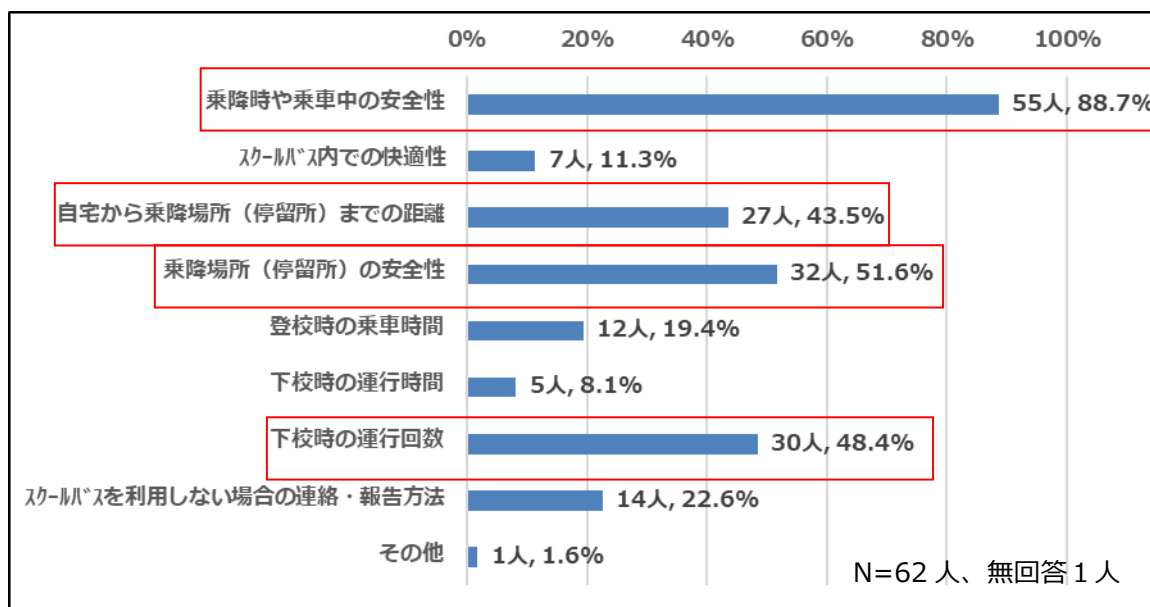


図 9 【再掲】スクールバス運行で重視する点<未就学児の保護者の場合>

(5) スクールバス運行に伴う懸念

スクールバス運行に伴う懸念について、児童の保護者、未就学児の保護者で傾向の変化は見られず、共通して「スクールバス乗降時の確認漏れ対策」の回答が最も多い。

また、「スクールバスの運行時の交通事故防止対策」「スクールバス乗降場所での安全性の確保」も懸念している。

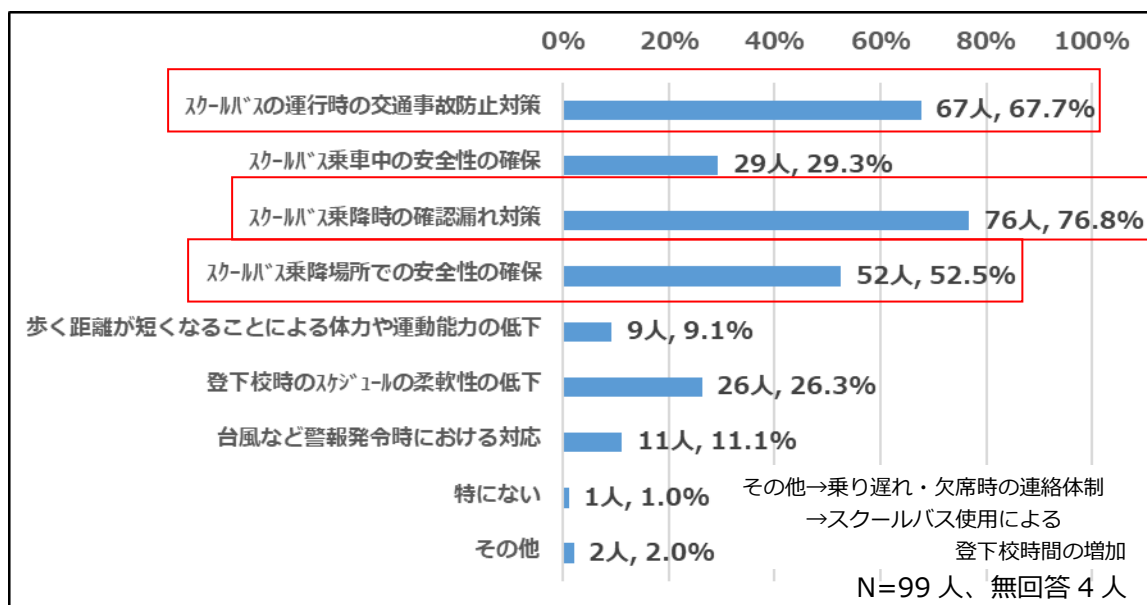


図 10 【再掲】スクールバス運行に伴う懸念<児童の保護者の場合>

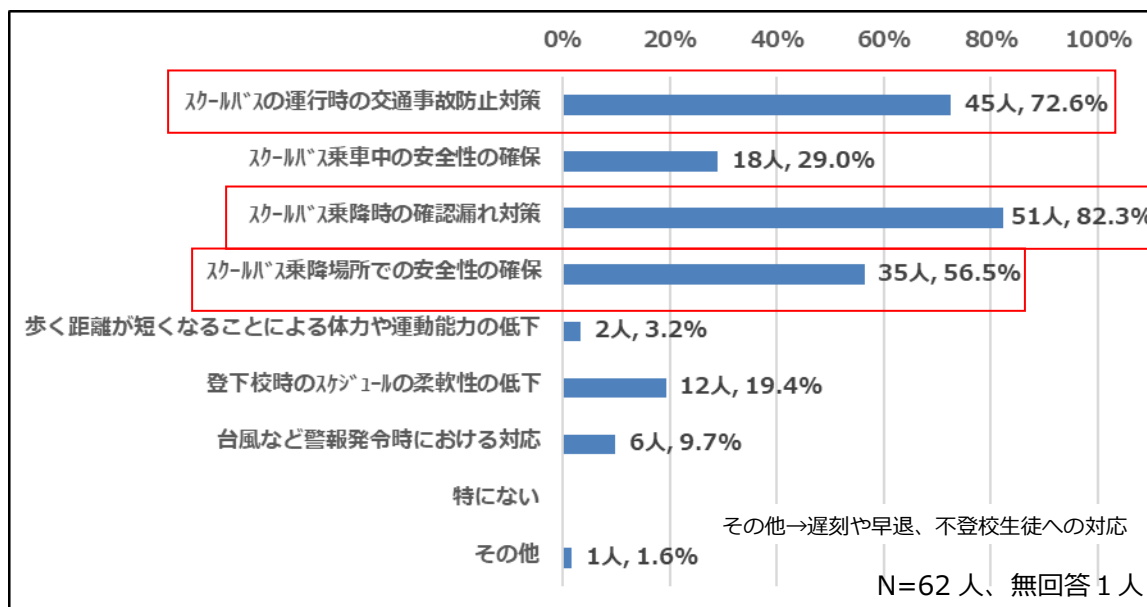


図 11 【再掲】スクールバス運行に伴う懸念<未就学児の保護者の場合>



(6) 地区毎（合川地区・天名地区）の違い

合川地区と天名地区の大きな違いとして、現在の小学校までの距離がある。

合川小学校は三宅町、徳居町、長法寺町の重心近くに位置し、集落からは距離が離れている一方、天名小学校は御菌町の集落の中に位置していることから、現在の通学距離は、校区全体として、合川地区の方が天名地区よりも長い。

また、天名地区の未就学児の保護者は、子どもの通学経験がないため、徒歩での通学距離の限界について、より短く捉える傾向にある。

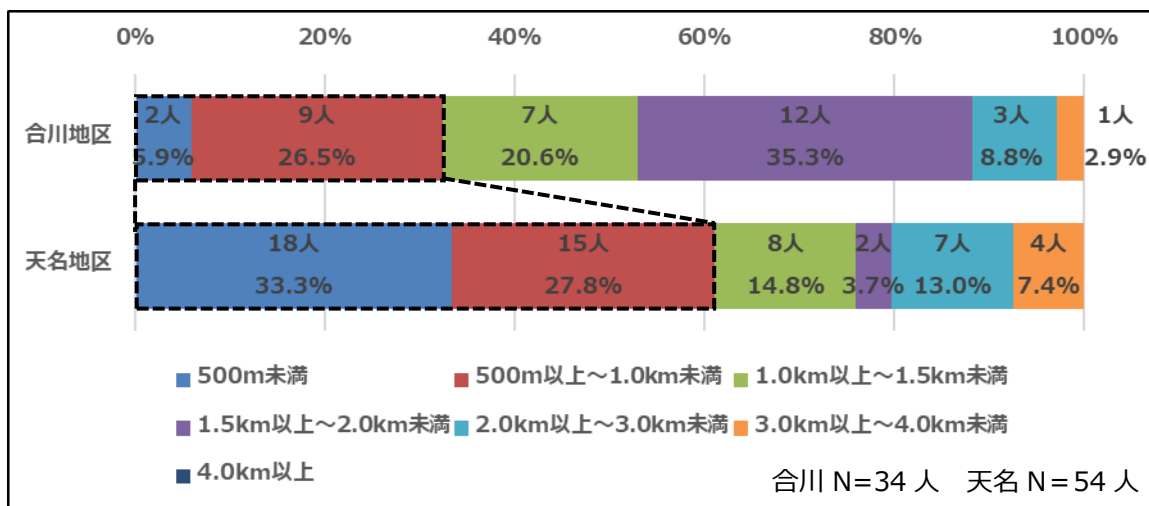


図 12 【再掲】自宅から小学校までの通学距離<児童の保護者の場合>

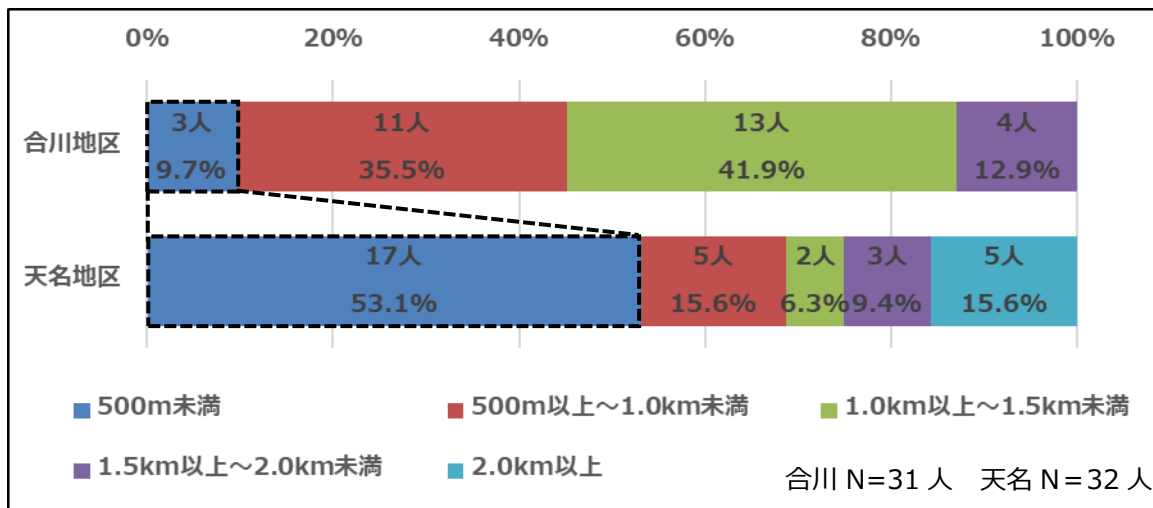


図 13 【再掲】自宅から小学校までの通学距離<未就学児の保護者の場合>

「スクールバス利用希望の理由」として、天名地区の児童の保護者は、合川地区の児童の保護者に比べて、「通学路にある危険な場所が心配」と回答した割合が多い。

また、「通学路の交通安全の面が心配」とした回答した割合についても、天名地区の児童の保護者は、合川地区の児童の保護者に比べて多い。

天名地区の保護者は、合川地区の保護者に比べて、「自宅から乗降場所までの適切な距離」を「500m 未満」と回答した割合が 57.7%と高い。また、天名地区の未就学児の保護者の方が、合川地区の未就学児の保護者に比べて、自宅からスクールバスの乗降場所（停留所）までの距離を重要視している。

これらの点から、天名地区は合川地区に比べて、現在の通学距離を踏まえ、通学距離が長くなることに対する抵抗感が強い傾向がある。

また、天名地区は、全線開通した中勢バイパスの御菌ランプ周辺の交通量が増えたことや、「新たな小学校」の場所である現在の郡山小学校まで徒歩で向かう場合には、天名地区の南側を東西に流れる二級河川の中ノ川を渡ることなど、危険箇所への不安や交通安全の面を重要視する保護者の思いが強いと考えられる。

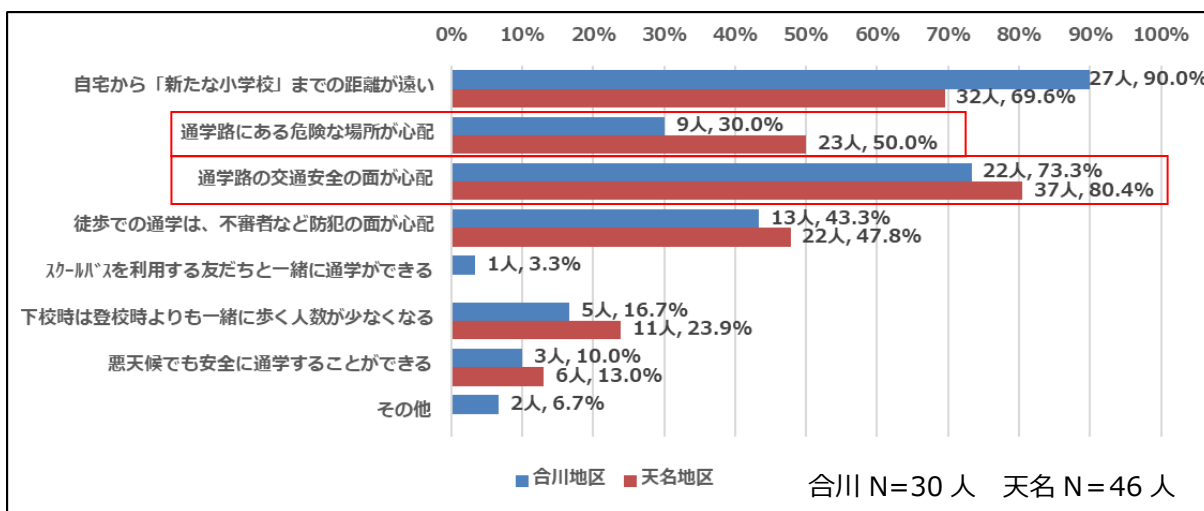


図 14 【再掲】スクールバス利用希望の理由<児童の保護者の場合>

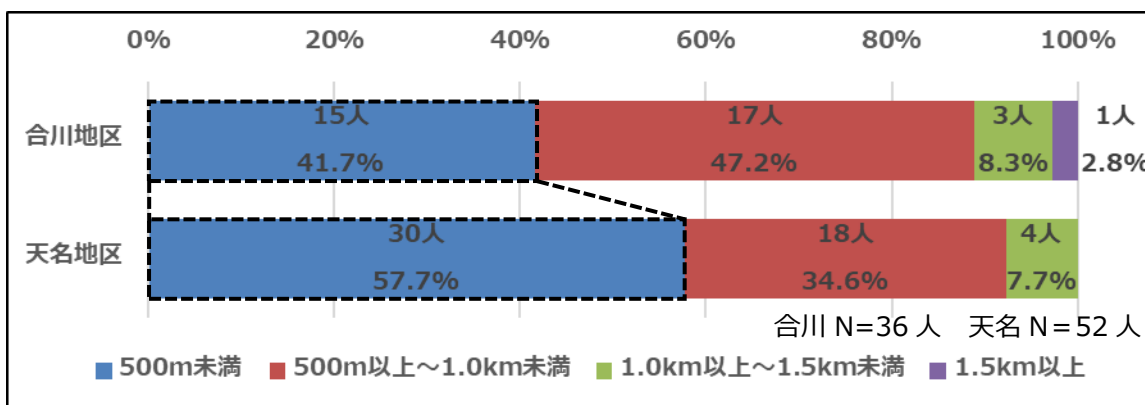


図 15 【再掲】自宅から乗降場所までの適切な距離<児童の保護者の場合>

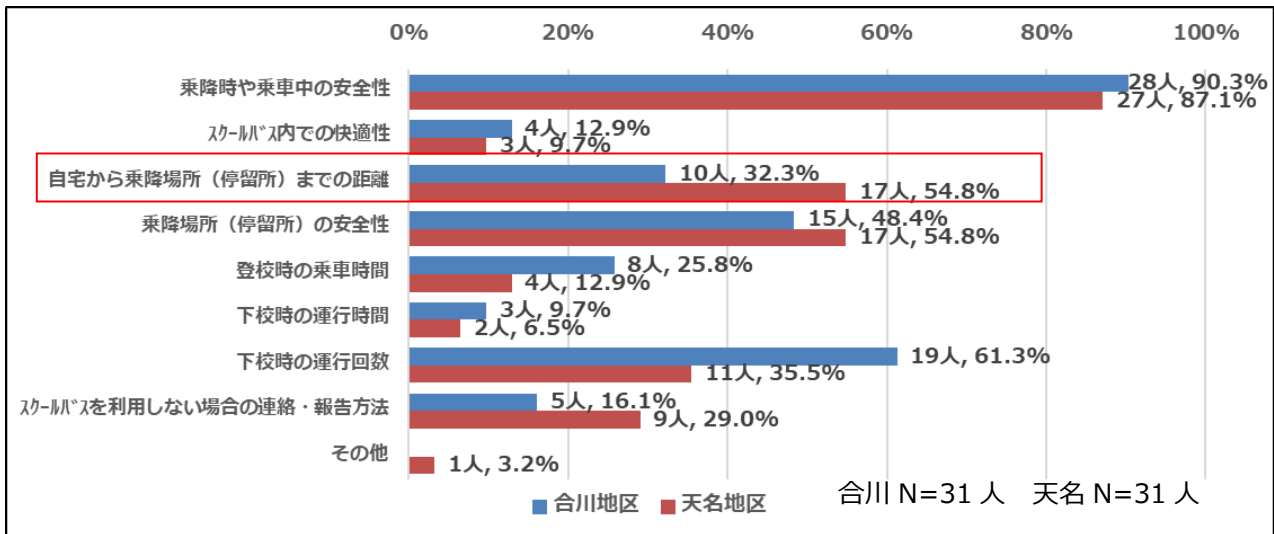


図 16 【再掲】スクールバス運行で重視する点<未就学児の保護者の場合>

(7) 学年毎 (低学年・高学年) の違い

低学年 (1~3 年生) と高学年 (4~6 年生) の違いについては、「通学距離の限度」の質問にて、若干の差が見られた。

具体的には、低学年の児童を持つ保護者の場合、通学距離の限界を 1.5km 未満で考えるケースが 64.4%であるのに対し、高学年の児童の場合は 50.0%である。

また、「1.5km 以上~2.0km 未満」を通学距離の限界と考える割合は、低学年の児童を持つ保護者は 21.4%である一方、高学年の児童を持つ保護者は 32.7%であり、保護者にとっての通学の「慣れ」も影響していると考えられる。

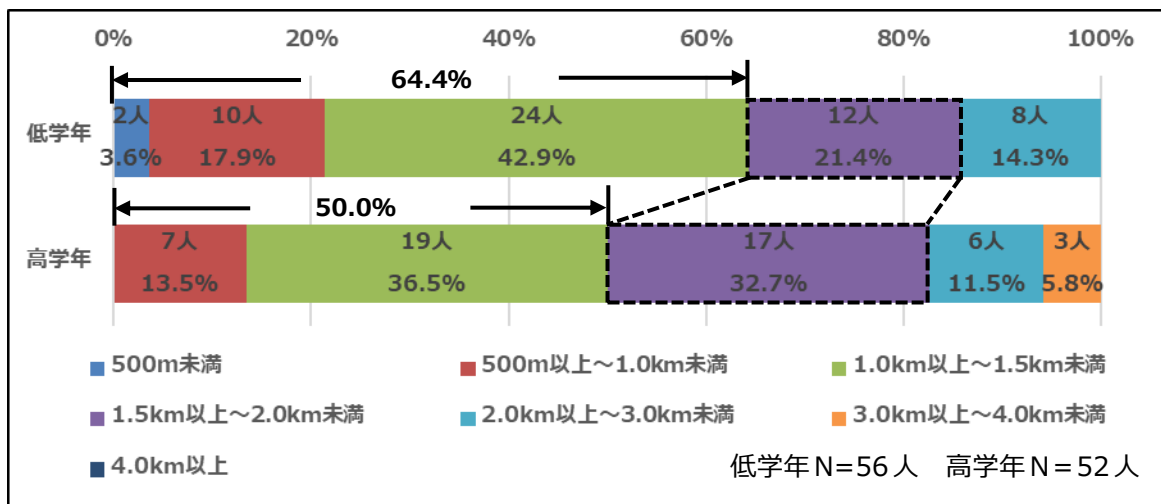


図 17 【再掲】学年別の通学距離の限度

## 2.5. アンケート結果総括

アンケート結果から見えてきた保護者の意識及びスクールバス導入にあたっての課題をまとめると、以下のとおりとなる。

### (1) 保護者が適切と考えるスクールバス導入の考え方

- 多くの保護者が、スクールバス利用を希望する理由として「新たな小学校までの距離が遠い」としている。
- 次いで、「通学路の交通安全の面が心配」という理由が多く、配慮が求められる。
- 9割以上の保護者が、スクールバス乗降場所までの距離は1km未満が望ましいと考えている。
- 9割以上の保護者が、スクールバス乗車時間は30分（最大でも40分以内）が望ましいと考えている。
- 後述の安全性に係る内容以外では、「自宅から乗降場所までの距離」「下校時の運行回数」が関心事である。

これらを踏まえ、「5. スクールバス対象地域選定の考え方」にて、スクールバス導入シミュレーションの条件設定の根拠とする。

### (2) 安全性確保

- 多くの保護者にとって、スクールバス導入において「安全」が一番の関心事である。
- 安全性の中でも、「確認漏れ対策」に関する関心が高い。
- 低学年の児童を持つ保護者や、子どもの通学経験が無い未就学児の保護者は、徒歩での通学距離の限界を短く捉える傾向にある。スクールバスの運行にあたっては、1年生から6年生までの児童が乗車することになることから、低学年でも安全に利用できるよう配慮が求められる。

これらを踏まえ、「3. 先進事例の調査・分析」にあたっては、「安全の確保」の事例を中心に調査を行う。また、特に未就学児の保護者の不安を解消する取組が必要である（今後の課題）。

### (3) 地域性の配慮

- 令和8(2026)年4月の学校再編が予定されている合川小学校区及び天名小学校区においては、現在の小学校の位置が主たる集落内に位置する天名小学校区の保護者の方が長距離の徒歩通学に抵抗があると考えられる。
- 天名小学校区では、全線開通した中勢バイパスの御菌ランプが付近にあることから交通量の増加に加え、学校再編を契機に新たな通学路として、二級河川の中ノ川を渡る可能性が高く、危険箇所への対応や交通安全の面を特に重要視する傾向にあることから配慮が求められる。

これらを踏まえ、「5. スクールバス対象地域選定の考え方」においては、令和8(2026)年4月の「新たな小学校」の開校に伴い、スクールバス導入の検討を行う合川小学校区、天名小学校区では、一律の基準に捉われず、地域性に配慮した柔軟な検討が必要である。

## 2.6. 学校関係者へのヒアリング

### (1) 学校関係者へのヒアリングの概要

鈴鹿市では、今後複式学級の発生が見込まれている合川小学校、天名小学校の2校に郡山小学校を加えた3つの小学校で学校再編を行い、令和8(2026)年4月に「新たな小学校」の開校を予定している。

また、令和5(2023)年度の20年推計では、合川小学校、天名小学校のほか、井田川小学校、庄内小学校においても複式学級の発生が見込まれていることから、基本方針に基づき、学校の適正規模に向けた検討が求められる。

そこで、合川小学校、天名小学校、郡山小学校、井田川小学校、庄内小学校の5小学校の教職員(校長、教頭、その他教諭)に対して、スクールバス導入の考え方を把握するためのヒアリングを実施した。ヒアリングの実施日は以下のとおりである。

表3 教職員に対するヒアリング実施日

学校名	実施日
合川小学校	令和6(2024)年2月9日(金)
天名小学校	令和6(2024)年2月9日(金)
郡山小学校	令和6(2024)年2月9日(金)
井田川小学校	令和6(2024)年2月16日(金)
庄内小学校	令和6(2024)年2月16日(金)

ヒアリング内容の詳細について、次ページに示す。

表 4 小学校ヒアリング結果一覧（その1）

<p>1. スクールバス運行で重視する点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全な運行及び児童の安全（乗降場所、乗車中）</li> <li>・ 乗車時間（学校への到着時刻、学校からの出発時刻）</li> <li>・ 学校の臨時休業時等の対応</li> <li>・ スクールバスの運転手との連携体制（特に緊急時）</li> <li>・ 置き去り事故防止への対応（乗降時のチェック体制）</li> <li>・ 車内でのマナー遵守、指導</li> <li>・ バスの乗降時のチェック</li> </ul>
<p>2. 教職員の日常業務への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席や遅刻等によりスクールバスを利用しない児童の把握</li> <li>・ 運行時間や乗車人数の変更に伴い、保護者やスクールバスの運転手（バス運行事業者等）との連絡体制</li> <li>・ 登下校時のスクールバスから校舎までの誘導</li> <li>・ 下校時の乗車チェック</li> <li>・ 放課後児童クラブに通う児童への対応（スクールバスの利用の有無など降車場所の確認）</li> <li>・ 児童のバスの中でのマナー指導</li> </ul>
<p>3. 児童の安全面で不安な点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自宅からスクールバス乗降場所までの通学上の安全の確保（危険箇所の確認、見守り体制の構築） ⇒学校再編の対象となる小規模校は、学校全体の児童数は少なく、各通学班は少数での編成となることから見守り等の取組は重要。特に、下校時は、低学年と高学年で下校の時間が異なり、同一のルートで下校することになる児童数は更に少なくなる。</li> <li>・ 乗降場所での安全の確保</li> <li>・ スクールバス乗車中の安全の確保</li> <li>・ スクールバス乗車中のトラブルへの対応（バス酔い、トイレ、交通事故、緊急時等）</li> <li>・ 車内への児童置き去り防止に向けた対策</li> <li>・ スクールバス通学に慣れるまでの対応</li> </ul>
<p>4. 授業への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクールバスの学校到着時刻によっては、始業時間を遅らせるなどの対応が必要になる ⇒「朝の会」などの実施を踏まえて、8 時には学校に到着するように運行ダイヤを組んでほしい。</li> <li>・ 下校時のスクールバスの出発時刻が予め決まっていることから、放課後の補習等の個別指導は難しくなる</li> </ul>
<p>5. 運行の可否や運行時刻が変更されるケース</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動会や遠足、修学旅行、給食が無い始業日や学期末、夏季休業期間中の登校日などの年間のスケジュールは、前年度の 3 月頃には策定されていることから、下校時刻の変更は事前に周知できる</li> <li>・ 台風などの警報発令時等の対応は、前日や当日に決まることになるため、スクールバスの運行の可否や運行時刻の変更について、速やかに、保護者やバス運行事業者と連携する体制が必要になる</li> </ul>

表 5 小学校ヒアリング結果一覧（その2）

<p>6. 放課後児童クラブの活用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いずれの学校においても、在籍児童のうち 3~4 割が利用している</li> <li>・ 低学年の利用が多く、学年が上がるにつれて利用率は低下している</li> <li>・ 学校再編により、これまで利用して放課後児童クラブから、再編後の小学校の近くにある放課後児童クラブへ変更する児童もいるのではないか</li> </ul>
<p>7. 乗降場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「新たな小学校」での乗降場所は、徒歩で通学する児童の安全確保も踏まえた検討が望ましい</li> <li>・ その他の乗降場所は、これまでの徒歩通学の集合場所なども含めて安全性が確保されている場所が望ましい</li> <li>・ スクールバスの停車スペースが確保されている場所が望ましい（公共施設や公園、寺社の前等）</li> </ul>
<p>8. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的に運動量が少ない児童が、スクールバスによる通学により更に体力が落ちることが懸念される</li> <li>・ 小規模特認校制度を利用して合川小学校に通学している児童は、保護者が送迎している 合川公民館近くまで送迎し、その他の児童と一緒に通学している</li> <li>・ 小規模特認校制度利用者は、令和 8(2026)年度以降に通学する小学校について今後検討していくことになるが、これまでどおり、合川公民館近くからスクールバスに乗車する意向を示される可能性もある</li> </ul>

## (2) 学校ヒアリング結果のまとめ

5校のヒアリング結果をまとめると、以下のとおりである。

### 1) スクーバスの安全性及び教職員の日常業務に関する内容

- いずれの学校でのヒアリングにおいても、スクールバス導入で重要視するのは「児童の安全」であった。
- その他、スクールバス運行で重要視する点、業務負担の懸念等で、以下の意見があった。

#### 【安全の確保】

- ・ 車内でのマナー遵守、指導
- ・ 置き去り事故防止への対応（乗降時のチェック体制）
- ・ 登下校時のスクールバスから校舎までの誘導

#### 【連絡体制の確立】

- ・ 臨時休校時等の緊急時における学校、保護者、スクールバスの運転手（バス運行事業者等）との連絡体制
- ・ 欠席や遅刻等によりスクールバスを利用しない児童の把握方法
- ・ 放課後児童クラブに通う児童への対応（スクールバスの利用の有無や降車場所の確認）

保護者と同様、教職員にとってもスクールバス導入における一番の関心事は「安全」に係る事項である。安全面以外では、教職員の負担増加が関心事であり、特に連絡体制にバス運転手が加わることによる諸問題が関心事である。これらについては、「3. 先進事例の調査・分析」において、「安全の確保」「連絡体制の確立」の事例を中心に調査を行う。

### 2) スクールバス運行に関する内容

- 登校時は8時には、学校に着くようにしてほしい
- 「新たな小学校」での乗降場所は、徒歩で通学する児童の安全確保も踏まえた検討が望ましい
- その他の乗降場所は、これまでの徒歩通学の集合場所なども含めて安全性が確保されている場所が望ましい
- スクールバスの停車スペースが確保されている場所が望ましい（公共施設や公園、寺社の前等）

### 3) 登下校に関する内容

- 学校再編の対象となるような小規模校は、他の小規模校と比べても、学校全体の児童数は少なく、各通学班は少数での編成となる
- 特に、下校時は、低学年と高学年で下校の時間が異なり、登校時よりも更に少数での下校となることから、より留意が必要である



参考として、合川小学校、天名小学校の各通学班の現状を示す。

表 6 合川小学校、天名小学校の通学班の現状

学校名	通学班の数	1つの通学班の 児童数	1つの通学班における 低学年（1-3年生）の児童数
合川小学校※)	7	最大 11.0人 最小 5.0人 平均 7.4人	最大 4.0人 最小 2.0人 平均 3.0人
天名小学校	8	最大 15.0人 最小 4.0人 平均 9.1人	最大 8.0人 最小 2.0人 平均 4.8人

※) 合川小学校の小規模特認校制度利用者は、原則、保護者が送迎することになっていることから上記の数に含んでいない。

(令和6(2024)年度時点の想定人数)